

資料2

概要版

上越市

都市計画マスタープラン(地域別構想(案))

1. 上越地域 (1) 直江津周辺地域

1・地域の概要

《位置》

●直江津周辺地域は、上越都市計画区域の北部に位置し、北側に日本海、西側に中山間地域が広がる地域です。地域の中心部で関川・保倉川が合流し、その周辺に広がる平坦地に市街地が形成されています。

《都市計画上の位置づけ》

●直江津周辺地域は、線引き都市計画区域※となっており、直江津港、直江津駅、五智公園などを含む地域の大部分が市街化区域に、森林が広がる地域西側の一部及び農地が広がる地域南側の一部が市街化調整区域になっています。

※線引き都市計画区域：無秩序な市街化を防止し、計画的に市街化を進めるため、市街化区域と市街化調整区域に区分している都市計画区域

1 地域資源

- 直江津周辺地域は、交通の要衝として古くから栄えた歴史文化のまちであり、親鸞聖人上陸の地と言われる居多ヶ浜、上杉謙信が再興した五智国分寺などの様々な名所があります。
- 直江津港は、上越市と佐渡市を結ぶ小木直江津航路が運航されており、広域観光の玄関口となっています。また、韓国・中国への外貿定期コンテナ航路を有する重要港湾であるとともに、火力発電所やLNG基地が操業するなどエネルギー拠点でもあります。上越沖日本海のメタンハイドレートの存在は、直江津港のエネルギー拠点としての重要性を一層高めることが期待されています。
- また、臨海地域を中心に化学や金属関係の大手製造業が立地し、関連企業を含め、市内経済を支えています。
- 本地域には、なおえつ海水浴場や上越市立水族博物館などの観光資源があります。



直江津港周辺



上越市立水族博物館

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに増加傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも低く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも高い状況になっています。

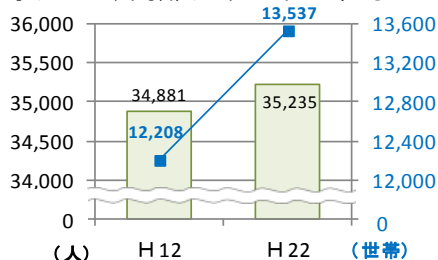


図 人口と世帯数の推移

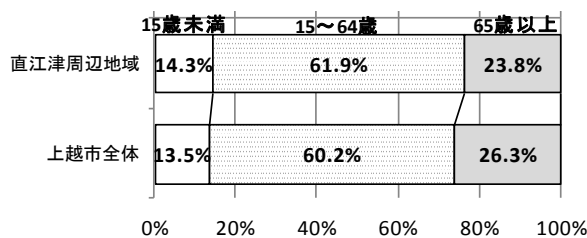


図 区分別人口構成比(H22)

出典：国勢調査に
基づき集計

2・地域の現状と課題

●商業、工業、観光、文化などの多様な都市機能が集積する地の利をいかすとともに、都市機能が利用しやすい魅力的な居住の場を提供するなど、暮らしやすい居住環境及び都市機能の維持・形成に取り組むことが必要です。

●北陸自動車道や一般国道8号などの幹線道路、信越本線や妙高はねうまライン・日本海ひすいラインなどの鉄道、直江津港を起点とする航路などが結節する交通の要衝として、地域の日常生活や産業活動を支え、本地域と他地域との交流・移動を支えることが必要です。

●日本海に面し、一級河川の関川・保倉川の河口付近に市街地が広がる本地域では、洪水や津波に伴う浸水被害、沿岸部における海岸浸食などの課題に対応し、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。

3・本地域が担う役割

『商業、工業、観光、文化、居住、交通などの多様な機能を有する地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- めりはりのある土地利用や都市拠点の形成、新水族博物館の整備に合わせた公園などの整備により、公共施設や商業施設、工業団地、観光・文化施設、居住などの機能の維持・集積を目指します。
- 交通の要衝としての役割を引き続き担うため、幹線道路の整備促進や必要な生活道路の整備、公共交通ネットワークの確保などにより、交通結節点としての機能の維持・集積を目指します。
- 河川の適正な維持管理、津波避難誘導看板の設置やハザードマップなどによる周知活動、海岸保全施設の整備促進、自主防災組織の支援などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。

1 めりはりのある土地利用の推進

市街地

住居系

- 住宅を主とする低層低密な住宅地では、閑静でゆとりある良好な住環境の形成に向けた土地利用を推進します。
- 幹線道路の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- 一般国道8号などの主要幹線道路の沿道では、身近な便利施設や良好な住環境が共存できる市街地環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- 直江津駅周辺では、中高層住宅の誘導やオープンスペースの確保などにより、様々な都市機能をいかした利便性の高い住宅地の形成に向けた土地利用を推進します。

工業系

- 工業集積地では、交通の要衝に位置する充実した環境をいかして、企業誘致など産業分野の施策との連携により適正な土地利用を進めるとともに、社会経済情勢などの変化を踏まえ、地域のニーズに合った適正な土地利用を検討します。
- 直江津港周辺では、エネルギー港湾としての特徴をいかしつつ、物流拠点としての利便性を高め、物流やエネルギー関連企業、製造業などの集積を促進します。
- 流通業務地においては、北陸自動車道、一般国道8号、直江津港、直江津駅などに近接する充実した環境をいかし、流通業務系施設の立地を誘導するため、地域のニーズを踏まえて土地利用の面から適正に支援します。

商業系

- 直江津駅周辺の商業集積地では、上越地域全体の商業圏域を支える集客性の高い商業施設や観光・交流施設などの集積を誘導します。
- 生活利便商業集積地では、隣接する住宅地の生活環境との調和を図りつつ、日常生活に必要な小規模な日用品店舗などの立地を誘導します。

中山間地域
田園地域

農地
自然

- 市街化調整区域においては、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を目指します。

集落

- 都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。

全地域

- 地域住民が身近に親しむことができる様々な自然資源や観光・文化資源の活用などにより、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

2 拠点の形成

直江津駅周辺

- 生活の利便性を向上させるため、既存の都市機能の適正な維持・更新に加え、商業、交流施設などの多様な機能の立地を図ります。
- 歴史を感じさせるまちなみや景観、新水族博物館などの新たな地域資源の活用を図り、市内外との人の交流を促進します。
- 当地域の多様な機能を維持するため、関係分野との連携により空き店舗の利用促進や地域活動の支援などのソフト政策を展開し、商業活性化や居住環境の向上を支援します。

3 道路ネットワークの確保

拠点間

● 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

● 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。

都市計画道路

● 直江津港から関東、北陸、長野方面に連絡する広域的な環状道路の形成や直江津港、新潟県南部産業団地などへの円滑な物流を確保するため、都市計画道路黒井藤野新田線の整備促進に引き続き努めます。

● 長期にわたって未着手となっている都市計画道路は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

● 市民の日常生活を支え、市内外の人の交流を促進するため、拠点間を結ぶ路線バスの維持や重複する交通網の再編成などにより、市内外の人たちが利用しやすい鉄道やバスの地域公共交通網の形成を図り、維持していきます。

鉄道

- 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。
- 直江津駅では、妙高はねうまラインと日本海ひすいライン、信越本線及びほくほく線への乗り換えがスムーズに行えるよう、ダイヤの設定や発着ホームへの配慮を働きかけます。
- 上越妙高駅と市内各地を結ぶため、信越本線、ほくほく線への直通運転の実施や、上越妙高駅と直江津港を結ぶ公共交通の確保を働きかけます。

5 新水族博物館の整備に合わせた公園、駐車場などの整備

- 市内外との人の交流を促進する機能の充実を図るため、新水族博物館の整備を推進するとともに、公園、駐車場など周辺施設の整備を検討します。

6 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

下水道

● 生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道(汚水・雨水)の整備を推進します。

浸水対策

● 国・県により管理される関川、保倉川、戸野目川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川や雨水幹線などについても適正な維持管理を推進します。

津波対策

● 津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップなどによる周知活動を図ります。

地域防災力

● 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

● 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

土砂災害対策

● 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。

海岸浸食対策

● 沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

7 都市環境の保全

公害防止

● 産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用への見直しを図るなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。

緑地空間

● 環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。

砂防林

● 海岸部特有の飛砂による被害の防止に向けて、関係分野と連携しながら松林などの飛砂防備保安林の保全・維持管理を推進します。

地域づくりの方針図（直江津周辺地域）



1. 上越地域 (2) 春日山周辺地域

1・地域の概要

《位置》

- 春日山周辺地域は、上越都市計画区域のほぼ中心部に位置し、中心部を南北方向に流れる一級河川関川の両岸に広がる平坦地に市街地が形成されている地域です。

《都市計画上の位置づけ》

- 春日山周辺地域は、線引き都市計画区域※となっており、一般国道18号上新バイパス、一般県道上越脇野田新井線(通称:上越大通り)、妙高はねうまライン、主要地方道上越新井線(通称:山麓線)の沿道を中心に市街化区域が広がり、その外縁部の一部が市街化調整区域になっています。

※線引き都市計画区域:無秩序な市街化を防止し、計画的に市街化を進めるため、市街化区域と市街化調整区域に区分している都市計画区域

1 地域資源

- 春日山駅周辺には、上越市役所、上越文化会館、総合体育館などの公共施設があります。
- 一級河川関川より東側には、北陸自動車道上越インターチェンジがあり、その周辺に商業施設や流通業務団地、総合病院などがあります。
- 本地域の西側には、国の指定史跡である春日山城跡、春日神社、林泉寺、春日山神社、埋蔵文化財センター、春日山城跡ものがたり館などの観光・文化資源があります。
- 本地域には、リージョンプラザ上越、教育プラザ、農業研修センター芙蓉荘など、研修や集会、スポーツ、娯楽などを通じて様々な人や団体が交流する場所となる施設があります。



上越インターチェンジ周辺の商業施設



春日山

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに増加傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも低く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも高い状況となっています。

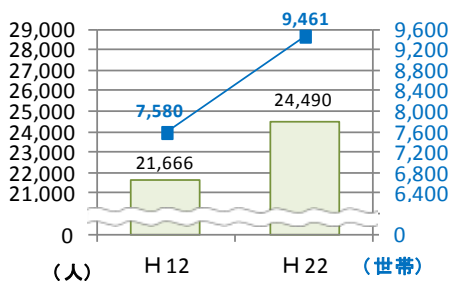


図 人口と世帯数の推移

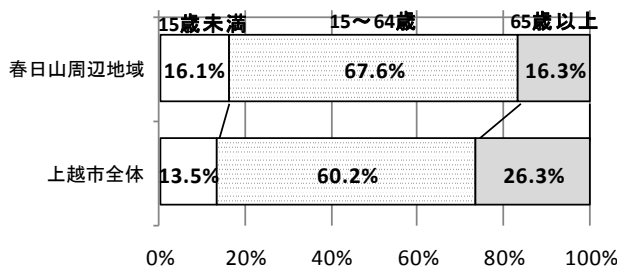


図 区分別人口構成比(H22)

出典:国勢調査に基づき集計

2・地域の現状と課題

- 本地域においては、上越市役所、上越文化会館、リージョンプラザ上越などの公共施設や交流施設が集積する地の利をいかすとともに、都市機能が利用しやすい魅力的な居住の場を提供するなど、暮らしやすい環境及び都市機能の維持・形成に取り組むことが必要です。
- 一級河川関川より東側では、広域ネットワーク及び北陸自動車道上越インターチェンジに近接する充実した環境をいかした土地利用を進める必要があります。
- 春日山、春日山城跡、春日神社、林泉寺、春日山神社、埋蔵文化財センター、春日山城跡ものがたり館などがある春日山一帯では、地域住民が身近に親しむことができる自然資源や歴史的な観光・文化資源などをいかして、市内外との交流・連携の更なる充実に取り組む必要があります。

3・本地域が担う役割

『行政、文化、交流、商業、流通業務、観光、居住などの多様な機能を有する地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 行政、文化、交流、暮らしの中心となる多様な機能を有する地域としての役割を果たすため、めりはりのある土地利用や都市拠点の形成などにより、公共施設、交流施設、居住などの機能の維持・集積を目指します。
- 周辺の住環境に配慮しながら、北陸自動車道上越インターチェンジに近接する充実した環境をいかした商業、流通業務などの都市機能の維持・集積に努めます。
- 春日山城跡、春日神社、林泉寺、春日山神社、埋蔵文化財センター、春日山城跡ものがたり館など、春日山一帯の次世代に引き継ぐべき様々な自然資源や観光・文化資源を活用した市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備、雨水対策などに取り組みます。

1 めりはりのある土地利用の推進

市街地

住居系

- 住宅を主とする低層低密な住宅地では、ゆとりある良好な住環境の形成に向けた土地利用を推進します。
- 幹線道路の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- 主要地方道上越新井線(通称:山麓線)などの主要幹線道路の沿道では、身近な便利施設や良好な住環境が共存できる市街地環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- 春日山駅周辺では、中高層住宅の誘導やオープンスペースの確保などにより、本地域の様々な都市機能をいかした利便性の高い住宅地の形成に向けた土地利用を推進します。

工業系

- 流通業務地では、周辺の住環境と共存し、かつ工業地としての利便性を向上させる流通関連施設の誘導を推進します。

商業系

- 春日山駅周辺及び上越インターチェンジ周辺の商業集積地では、上越地域全体の商業圏域を支える集客性の高い商業施設や観光・交流施設などの集積を誘導します。
- 特に、上越インターチェンジ周辺においては、広域ネットワークに近接する充実した環境をいかし、引き続き、既存の商業・流通業務機能の維持・集積に努めます。
- 生活利便商業集積地では、隣接する住宅地の生活環境との調和を図りつつ、日常生活に必要な小規模な日用品店舗などの立地を誘導します。

中山間地域 田園地域

農地自然

- 春日山城跡、春日神社、林泉寺、春日山神社、埋蔵文化財センター、春日山城跡ものがたり館など、春日山一帯にある地域住民が身近に親しむことができる自然資源や観光・文化資源の保全と活用に向けた土地利用を目指します。特に、国指定史跡である春日山城跡を含む春日山一帯では、関係分野の施策に基づく取組と連携しながら、その保存管理及び活用に取り組めます。

集落

- 市街化調整区域においては、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。

全体域

- 地域住民が身近に親しむことができる様々な自然資源や観光・文化資源の活用などにより、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

2 拠点の形成

春日山駅周辺

- 行政、文化、交流などの多様な機能の適正な維持・更新を図ります。また、上杉謙信ゆかりの春日山への玄関口であることをいかして交流の促進を図るとともに、暮らしやすい居住環境の維持に取り組みます。
- 本地域及び上越市全体の生活利便性向上と地域活性化を図るため、本地域と各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。



上越市役所

3 道路ネットワークの確保

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。

都市計画道路

- 幹線道路網及び市街地内の生活道路網の形成を図るため、社会経済情勢や地域での必要性も踏まえ、関係機関と連携しながら都市計画道路の整備に努めます。
- 長期にわたって未着手となっている都市計画道路は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- 市民の日常生活を支え、市内外の人々の交流を促進するため、拠点間を結ぶ路線バスの維持など、市内外の人たちが利用しやすい鉄道やバスの地域公共交通網の形成を図り、維持していきます。

鉄道

- 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。特に、妙高はねうまラインについては、上越妙高駅における北陸新幹線との乗り換えがスムーズに行えるようにダイヤの設定などへの配慮を働きかけます。

5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

下水道

- 生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道(汚水・雨水)の整備を推進します。

浸水対策

- 国・県により管理される関川、正善寺川、御館川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川や雨水幹線などについても適正な維持管理を推進します。

地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

6 都市環境の保全

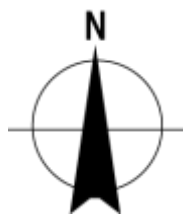
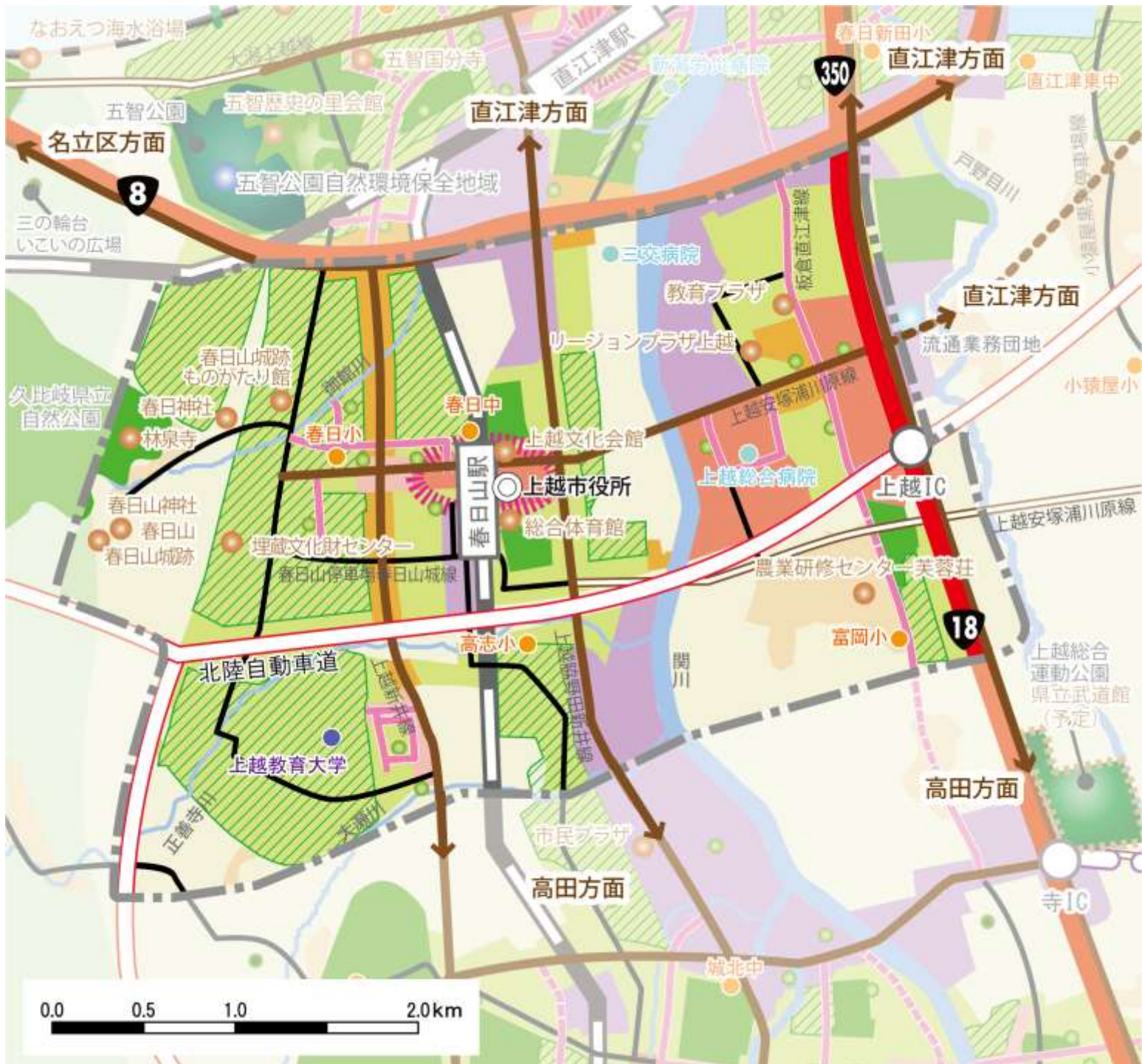
公害防止

- 産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用への見直しを図るなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。

緑地空間

- 環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。

地域づくりの方針図(春日山周辺地域)



凡例		公園		交通ネットワーク		
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 住宅地(住宅地) 生活利便施設(住宅地) 商業集積地(住宅地) 商業集積地(住宅地) 田園地域 都市計画区域 	<ul style="list-style-type: none"> 生活利便施設(住宅地) 商業集積地(住宅地) 流通業務地 生活利便施設(住宅地) 中山間地域 	<ul style="list-style-type: none"> 公園 運動公園 特殊公園 地区公園(近隣公園) その他の公園 自然公園 	<ul style="list-style-type: none"> 高規格道路 主要幹線道路 都市計画道路 都市計画道路以外 都市計画道路 その他幹線道路 	<ul style="list-style-type: none"> 河川 自然環境保全地域 景観づくり重点区域 水源地保護地域 市民庁・総合事務所 小中学校・高等学校・中等教育学校 大学 工業団地 その他の施設 	<ul style="list-style-type: none"> 道路ネットワーク 駅 IC 計画線 新幹線 IC

1. 上越地域 (3)高田周辺地域

1・地域の概要

《位置》

●高田周辺地域は、上越都市計画区域のほぼ中心部に位置し、西側には中山間地域が広がり、東側には一級河川関川が流れており、その周辺に広がる平坦地に市街地が形成されている地域です。

《都市計画上の位置づけ》

●高田周辺地域は、線引き都市計画区域※となっており、地域の大部分が市街化区域ですが、外縁部の一部が市街化調整区域になっています。

※線引き都市計画区域：無秩序な市街化を防止し、計画的に市街化を進めるため、市街化区域と市街化調整区域に区分している都市計画区域

1 地域資源

- 高田周辺地域には、高田城三重櫓、総合博物館などの観光・文化施設が集積しています。高田公園は日本三大夜桜のひとつに数えられ、東洋一と賞されるハスが生長しています。
- また、日本スキー発祥の地である金谷山公園などの観光資源や、雪国の暮らしを象徴する雁木、浄興寺を有する寺町などの歴史的なまちなみが形成されています。
- 一般県道上越脇野田新井線（通称：上越大通り）沿線には、様々な市民活動の場となる市民プラザがあります。
- 一級河川関川より東側には、県立中央病院、県立看護大学があります。また、上越魚沼地域振興快速道路の整備予定地と隣接して上越総合運動公園があり、将来的には県立武道館が整備される予定です。



高田公園



雁木

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口が減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は約26%であり、人口構成比は市の平均に近い状況となっています。

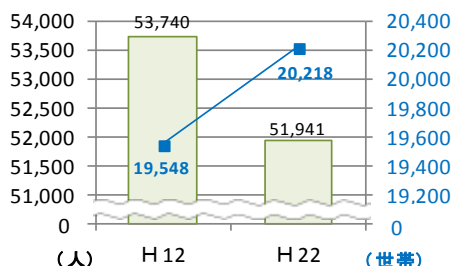


図 人口と世帯数の推移

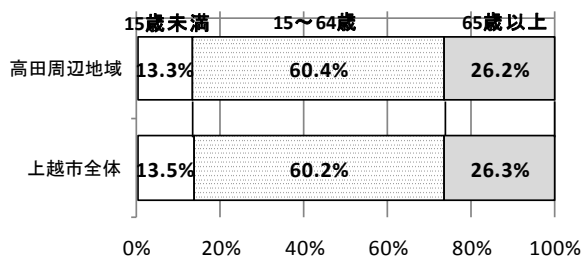


図 区分別人口構成比(H22)

出典：国勢調査に基づき集計

2・地域の現状と課題

- 上越市の中心地としての歴史的背景や、これまでに整備された道路、下水道などの都市基盤、高田公園などの既存の地域資源をいかすとともに、上越魚沼地域振興快速道路や上越総合運動公園などの整備進展や今後の社会経済情勢の変化に合わせた地域づくりが必要です。
- 高田駅周辺に広がる市街地においては、商業、医療、福祉、観光、文化、交通、流通業務などの多様な都市機能が集積する地の利をいかすとともに、都市機能が利用しやすい魅力的な居住の場を提供するなど、暮らしやすい居住環境及び都市機能の維持・形成に取り組むことが必要です。
- 雪国の暮らしを象徴する雁木、浄興寺を有する寺町などの歴史的なまちなみなど、上越市を代表する歴史・雪国文化を象徴する景観の形成・保全に向けて、引き続き取り組むことが必要です。

3・本地域が担う役割

『商業、医療、福祉、観光、文化、交通、居住、流通業務などの多様な機能を担う地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 市街地の良好な住環境の形成、市街地の無秩序な拡大の抑制などのめりはりある土地利用、憩いと交流の場となる高田公園の機能強化などを進めるとともに、上越魚沼地域振興快速道路や上越総合運動公園などの整備進展、社会経済情勢の変化などに伴う新たな地域のニーズに応じた土地利用などを検討します。
- 商業、医療、福祉、観光、文化、交通、居住、流通業務などの多様な機能を有する地域としての役割を果たすため、めりはりある土地利用や都市拠点の形成などにより、公共施設や商業施設、医療福祉施設、観光・文化施設、交通施設、流通業務施設、居住などの機能の維持・集積を目指します。
- 上越市の文化と歴史を象徴するまちなみ・景観を次世代に残すための都市景観の形成・保存に努めます。

1 めりはりある土地利用の推進

市街地

住居系

- 住宅を主とする低層低密な住宅地では、閑静でゆとりある良好な住環境の形成に向けた土地利用を推進します。特に、歴史的資源が集積する地区においては、歴史的な雰囲気と周辺環境との調和や良好な住環境の形成に向けた土地利用を目指します。
- 幹線道路の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- 一般国道18号上新バイパスなどの主要幹線道路の沿道では、住環境に配慮した沿道の商業・業務施設などの立地を適正に図れるよう、身近な便利施設や良好な住環境が共存できる市街地環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- 高田駅周辺では、中高層住宅の誘導やオープンスペースの確保などにより、本地域の様々な都市機能をいかした利便性の高い住宅地の形成に向けた土地利用を推進します。

工業系

- 流通業務地においては、上信越自動車道上越高田インターチェンジに近接する充実した環境をいかし、流通業務系施設の立地を誘導するため、地域のニーズを踏まえて土地利用の面から適切に支援します。

商業系

- 高田駅周辺の商業集積地では、上越地域全体の商業圏域を支える集客性の高い商業施設や観光・交流施設などの集積を誘導します。
- 生活利便商業集積地では、隣接する住宅地の生活環境との調和を図りつつ、日常生活に必要な小規模な日用品店舗などの立地を誘導します。

将来

- 寺インターチェンジ周辺については、上越魚沼地域振興快速道路及び周辺道路の整備の進捗状況や地域のニーズなどを考慮して、ゲートウェイとしての位置づけを視野に、ふさわしい機能の整備・誘導に向けた土地利用を検討します。

田園地域 中山間地域

農地 自然

- 市街化調整区域においては、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を目指します。

集落

- 都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。

全地域

- 地域住民が身近に親しむことができる様々な自然資源や観光・文化資源の活用などにより、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

2 拠点の形成

高田駅周辺

- 医院・診療所や介護老人福祉施設、裁判所、税務署、ビジネスホテルなどの既集積している都市機能や雁木などまちの歴史的価値をさらに高めるため、必要な都市機能の集積や歴史的まちなみの保存・活用を促進します。
- 歴史文化などの地域資源をいかしたまちなかの回遊性や空き店舗などの既存ストックの活用などによるにぎわいの向上を支援します。
- まちなかの定住を促進するため、必要な狭隘部の拡幅や市街地再開発による住宅地整備などを検討し、居住環境の向上が図れるまちなみの形成を検討します。
- 本地域及び上越市全体の生活利便性向上と地域活性化を図るため、本地域と各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

3 道路ネットワークの確保

広域

- 市内外との広域的な移動と交流・連携を支える広域ネットワークの形成のため、上信越自動車道の4車線化の早期実現を働きかけます。

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。

都市計画道路

- 幹線道路網及び市街地内の生活道路網の形成を図るため、社会経済情勢や地域での必要性も踏まえて、関係機関と連携しながら都市計画道路の整備に努めます。
- 長期にわたって未着手となっている都市計画道路は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- 市民の日常生活を支え、市内外の人の交流を促進するため、南北軸の路線バスの維持、重複する路線バス網の再編成などにより、市内外の人たちが利用しやすい鉄道やバスの地域公共交通網の形成を図り、維持していきます。

鉄道

- 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。
- 妙高はねうまラインについては、上越妙高駅における北陸新幹線との乗り換えがスムーズに行えるようにダイヤの設定などへの配慮を働きかけます。

5 憩いと交流の場となる高田公園の機能強化

- 市民や市外から多くの観光客が訪れる高田公園は、憩いと交流の場としての魅力向上を図るため、桜の保護や育成、施設機能の充実など、計画的な整備・維持管理に努めます。

6 スポーツ活動を軸とした交流の場としての上越総合運動公園の整備

- スポーツ活動を軸とした交流の場を形成し、広域的な交流をさらに促進することにより地域活性化を図るため、県立武道館の整備計画の進捗をみながら、上越総合運動公園及びその周辺も含めた整備を計画的に進めます。

7 都市景観の保全

- 上越市を代表する歴史・雪国文化を象徴する景観の形成・保存に向けて、地域住民と連携しながら雁木の維持・整備を促進します。

8 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

下水道

- 生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道(汚水・雨水)の整備を推進します。

浸水対策

- 国・県により管理される関川、青田川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川や雨水幹線などについても適正な維持管理を推進します。

地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

雁木保存

- 雁木の機能性や安全で安心な生活空間としての利便性の向上を図るため、市民による雁木保存・活用への取組を支援します。

9 都市環境の保全

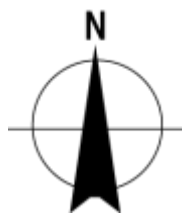
公害防止

- 産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用への見直しを図るなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。

緑地空間

- 環境負荷低減などのため、各分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。

地域づくりの方針図(高田周辺地域)



凡例		公園		交通ネットワーク	
土地利用	市街地	公園	交通ネットワーク		
住宅を主とする 低層住宅密集地	生活利便施設を主とする 住宅(中高層)	広域公園	高規格道路	道路ネットワーク	
住宅を主とする 中高層住宅密集地	商業目的を主とする住宅地	運動公園	主要な幹線道路	広域	
工業集積地	流通業務地	特種公園	都市計画道路	拠点間	
商業集積地	生活利便施設集積地 (一部、流通商業目的住宅地を含む)	地区公園・近隣公園 街区公園	都市計画道路以外	地区内	
田園地域	中山間地域	その他の公園 (農村公園、公園など)	都市計画道路	その他	
都市計画区域	集落	自然公園	その他幹線道路	※点線は計画道路	
その他			鉄道		
河川	景観づくり重点区域	市民会館・総合事務所	新幹線		
自然環境保全地域	水圏水質保護地域	中学校・高等学校 中等教育学校	駅		
		大学	IC		
		病院			
		工業団地			
		その他の施設			

1. 上越地域 (4)上越妙高駅周辺地域

1・地域の概要

《位置》

●上越妙高駅周辺地域は、上越都市計画区域の南部に位置し、中心を一級河川矢代川、西部に一級河川青田川が南北に流れ、両川の流域を中心に、豊かな稲作地帯を支える沖積地が大きく広がっている地域です。

《都市計画上の位置づけ》

●上越妙高駅周辺地域は、線引き都市計画区域※となっており、上越妙高駅周辺及び一般県道上越脇野田新井線(通称:上越大通り)沿道を中心として市街化区域が広がり、その外縁部が市街化調整区域になっています。

※線引き都市計画区域:無秩序な市街化を防止し、計画的に市街化を進めるため、市街化区域と市街化調整区域に区分している都市計画区域

1 地域資源

- 東京都・長野県方面や富山県・石川県方面につながる北陸新幹線の上越妙高駅が平成27年3月に開業しました。
- 本地域の西側及び北東側の平坦地には、広大な農地が広がっています。
- 上越妙高駅の西側には、弥生時代から古墳時代の斐太遺跡群が広がり、本地域には、吹上(ふきあげ)遺跡と釜蓋(かまぶた)遺跡があります。(平成20年7月に国史跡に指定)



上越妙高駅



上越妙高駅と釜蓋遺跡

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに増加傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも低く、15歳未満の人口比率は市の平均よりもやや高い状況になっています。

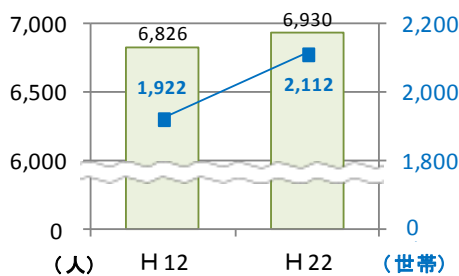


図 人口と世帯数の推移

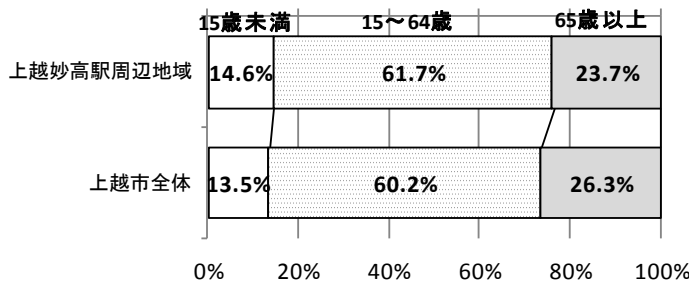


図 区分別人口構成比(H22)

出典: 国勢調査に基づき集計

2・地域の現状と課題

●北陸新幹線上越妙高駅及び上信越自動車道上越高田インターチェンジを有する本地域は、首都圏・北陸圏と上越地方全体を繋ぐ玄関口として重要な役割を担うことから、観光やビジネスなどを目的とした環境整備や都市基盤の充実を図りながら、市内外を行き来する人や物の玄関口となる地域づくりを推進することが必要です。

●田園地域では、一帯に広がる優良な農地や暮らし続けられる生活環境、地域の基幹産業である農業を守り、定住を促進するなど農村集落の維持に向けて取り組む必要があります。

●上越妙高駅の近くに釜蓋遺跡が位置するという地の利をいかした公園整備を進めることが必要です。

3・本地域が担う役割

『上越市の広域的なゲートウェイとなる地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 観光やビジネスを目的とした市内外を行き来する人々をもてなす環境整備や都市基盤の整備に向けて、商業、ビジネス、観光、流通業務などの都市機能の集積を目指します。
- 地域一帯に広がる豊かな農業環境の維持・保全に努め、農村集落で暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 遺跡見学などの歴史体験と連携した釜蓋遺跡公園の整備を進め、観光・文化資源としての活用により、市内外との交流・連携を支援します。

1 めりはりのある土地利用の推進

市街地

住居系

- 幹線道路の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- 一般県道上越協野田新井線(通称:上越大通り)などの主要幹線道路の沿道では、身近な利便施設や良好な住環境が共存できる市街地環境の形成に向けた土地利用を促進します。
- 上越妙高駅周辺では、中高層住宅の誘導やオープンスペースの確保などにより、本地域の様々な都市機能をいかした利便性の高い住宅地の形成に向けた土地利用を推進します。

工業系

- 流通業務地では、周辺の住環境と共存し、かつ工業地としての利便性を向上させる流通関連施設の誘導を推進します。

商業系

- 上越妙高駅周辺の商業集積地では、観光やビジネスなどを目的とした市内外を行き来する人々をもてなすにふさわしい環境整備や都市基盤の充実を図りながら、市内外への円滑な移動を実現する交通結節点としての利便性の確保や拠点性を高める機能の集積を促進します。



上越妙高駅周辺

中山間地域 田園地域

農地 自然

- 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。

集落

- 市街化調整区域においては、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。

2 道路ネットワークの確保

- 広域** ●市内外との広域的な移動と交流・連携を支える広域ネットワークの形成のため、上越自動車道の4車線化の早期実現を働きかけます。
- 拠点間** ●国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- 地域内** ●地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。
- 都市計画道路** ●市内各地から上越妙高駅へのアクセス性を高めるため、また良好な市街地形成を図るため、社会経済情勢や地域での必要性も踏まえて、関係機関と連携しながら都市計画道路の整備に努めます。
 - 長期にわたって未着手となっている都市計画道路は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。



県道 上越新井線
(通称:山麓線)

3 公共交通ネットワークの確保

- 地域全体** ●市民の日常生活を支え、市内外の人の交流を促進するため、拠点間を結ぶ路線バスの維持、重複する交通網の再編成などにより、市内外の人たちが利用しやすい鉄道やバスの地域公共交通網の形成を図り、維持していきます。
- 鉄道** ●利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた 運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。
 - 上越妙高駅では、停車する全ての北陸新幹線に接続するように妙高はねうまラインの運行本数の確保及び乗り換えがスムーズに行えるようなダイヤ設定などを働きかけます。
 - 上越妙高駅と市内各地を結ぶため、信越本線、ほくほく線への直通運転の実施や、上越妙高駅と直江津港を結ぶ公共交通の確保を働きかけます。
- バス** ●利用者ニーズを踏まえた上越妙高駅への路線バスの乗り入れ、路線の新設、ダイヤ設定などを働きかけます。



北陸新幹線(上越妙高駅)

4 釜蓋遺跡をいかした交流の場としての釜蓋遺跡公園の整備

- 観光・文化資源としての活用により交流の拡大などを図るため、遺跡見学などの歴史体験と連携した釜蓋遺跡公園の整備を進めます。
- また、市民との協働による公園の整備運営、その担い手となる人材育成などを支援し、様々な人々で賑わう公園づくりを目指します。

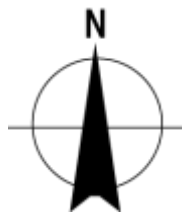
5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- 下水道** ●生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道(汚水・雨水)の整備を推進します。
- 浸水対策** ●県により管理される矢代川、青田川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川や雨水幹線などについても適正な維持管理を推進します。
- 地域防災力** ●木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。
- 空き家対策** ●放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

6 都市環境の保全

- 公害防止** ●産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用への見直しを図るなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。
- 緑地空間** ●環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。

地域づくりの方針図(上越妙高駅周辺地域)



凡例		公園		交通ネットワーク	
土地利用		公園		広域	
住宅を主とする 低層住宅密集住宅地	生活利便施設 住宅地(中高層)	広域公園	運動公園	高規格道路	主要な幹線道路
交通商業施設 住宅地	商業施設付高層住宅地	都市公園	特殊公園	都市計画道路	都市計画道路以外
工業集積地	流通業務地	地区公園・児童公園	その他公園 (農村公園、工場など)	都市計画道路	その他幹線道路
商業集積地	生活利便施設集積地 (一部、流通商業施設付住宅地を含む)	自然公園		※点線は計画道路	
田園地域	中山間地域				
都市計画区域					
その他					
河川	景観づくり重点区域	市役所・総合事務所	工業団地	鉄道	新幹線
自然環境保全地域	水源保護地域	中学校・高等学校 中等教育学校	その他施設	駅	IC
		高校			

1. 上越地域 (5)上越西部中山間地域

1・地域の概要

《位置》

- 上越西部中山間地域は、上越都市計画区域の西部に位置し、内陸側の大部分に中山間地域が広がり、日本海に面する沿岸部及び山間部に集落が点在する地域です。

《都市計画上の位置づけ》

- 上越西部中山間地域は、久比岐県立自然公園以外は線引き都市計画区域※の市街化調整区域になっています。

※線引き都市計画区域:無秩序な市街化を防止し、計画的に市街化を進めるため、市街化区域と市街化調整区域に区分している都市計画区域

1 地域資源

- 本地域には、豊かな自然環境の中で人々が生活を営む中山間地域が広がっています。
- 本地域には、大地に恵みをもたらす天然のダムとなっている南葉山地、くわどり市民の森自然環境保全地域などの豊かな自然資源や、久比岐県立自然公園(南葉高原キャンプ場、たにはま海水浴場、金谷山公園など)、里山の面影を色濃く残しているくわどり市民の森、自然とのふれあいや地元の新鮮な農産物を使った料理が楽しめる温泉宿泊施設(くわどり湯ったり村)、自然をいかした憩いと交流の場となっているたにはま公園などの観光資源やさざえ漁が盛んな有間川漁港があります。



中山間地域の集落



たにはま公園

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。

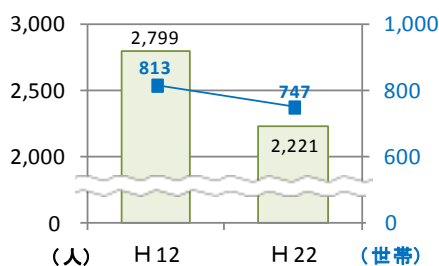


図 人口と世帯数の推移

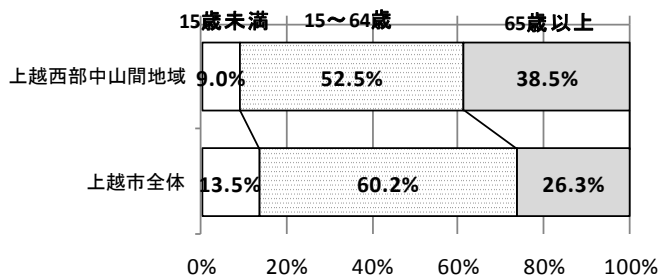


図 区分別人口構成比(H22)

出典: 国勢調査に基づき集計

2・地域の現状と課題

- 中山間地域における集落の維持を図るため、農村部において暮らし続けられる生活環境や農業環境の維持、新たな居住者の確保などに向けて取り組む必要があります。
- 日本海に面する沿岸部と中山間地域からなる本地域では、津波に伴う浸水被害、正善寺川下流の洪水被害、沿岸部における海岸浸食、土砂災害の危険のある区域の存在などの課題に対応し、安全・安心なまちづくりに取り組む必要があります。
- 自然資源や観光資源にみがきをかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3・本地域が担う役割

『豊かな自然環境と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や『自然を守りながら、市民が自然と親しむ場となる交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 中山間地域における集落機能、農業環境などの維持・確保などを図り、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 津波避難誘導看板の設置やハザードマップなどによる周知活動、海岸保全施設の整備促進、自主防災組織の支援などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。
- 自然資源や観光資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

1 めりはりのある土地利用の推進

農地
自然

- 農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

集落

- 市街化調整区域においては、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。

交流・
連携

- 地域住民が身近に自然と親しむことができるくわどり市民の森、久比岐県立自然公園、くわどり湯ったり村などの自然資源や観光資源の活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、津波、土砂災害、なだれ、正善寺川下流の洪水被害などに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。



水源保護地域の水が集まり
流れを作る桑取川上流域



たにはま海水浴場

2 道路ネットワークの確保

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組めます。



県道土口谷浜(停)線
(西横山～小池)

3 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- これまでの鉄道、路線バスなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線バスの重複区間の再編成や地域の状況に応じた新たな地域公共交通の導入などにより、地域公共交通を維持・確保します。

鉄道

- 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。

4 地域住民との協働によるたにはま公園の維持管理及び活用の検討

- たにはま公園の美化推進や利用促進などを図るため、地域住民との協働による維持管理を検討するとともに、地域住民による維持管理の活動を支援します。
- たにはま公園にある多目的広場(バーベキューエリア)、海の見える丘、創造の森、ドッグランなどの特色をいかし、市内外との交流の場としての活用に取り組めます。



たにはま公園(ドッグラン)

5 安全・安心な暮らしを暮らし基盤の形成

浸水対策

- 県により管理される正善寺川、桑取川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。

津波対策

- 津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップなどによる周知活動を図ります。

地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

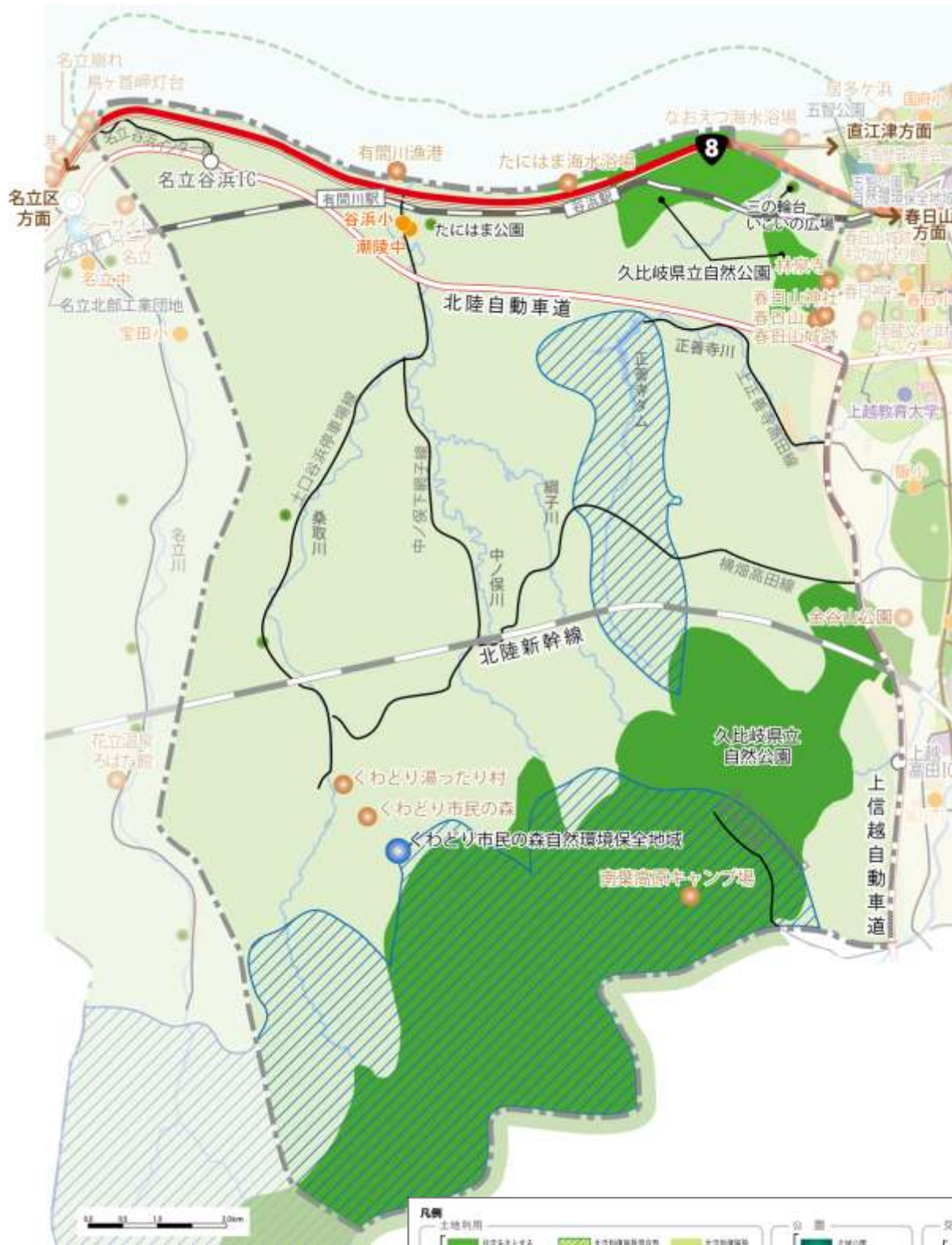
土砂災害対策

- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。

海岸浸食対策

- 沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

地域づくりの方針図(上越西部中山間地域)



土地利用		公園		交通ネットワーク	
住宅を主とする 集落地区の住宅地	生活利便施設を 中心とした住宅地 (中高層)	公園	公園	高速道路	主要な幹線道路
工業集積地	商業集積地	運動公園	公園	高規格道路	都市計画道路
商業集積地	流通業務地	特殊公園	公園	都市計画道路以外	都市計画道路
田園地域	中山間地域	公園	公園	都市計画道路	都市幹線道路
都市計画区域	都市計画区域	公園	公園	都市計画道路	その他の幹線道路
その他	その他	公園	公園	都市計画道路	鉄道
河川	自然環境保全地域	公園	公園	都市計画道路	新幹線
水産資源保護地域	水産資源保護地域	公園	公園	都市計画道路	駅
		公園	公園	都市計画道路	I.C.

1. 上越地域 (6)上越東部田園地域

1・地域の概要

《位置》

●上越東部田園地域は、上越都市計画区域の東部に位置し、広大な高田平野に水田が広がり、その中に農村集落が点在する地域です。

《都市計画上の位置づけ》

●上越東部田園地域は、線引き都市計画区域※となっており、市街化区域の戸野目周辺を除き、地域の大半が市街化調整区域になっています。

※線引き都市計画区域：無秩序な市街化を防止し、計画的に市街化を進めるため、市街化区域と市街化調整区域に区分している都市計画区域

1 地域資源

- 優良な農地が多く存在し、ゆとりある集落が形成されています。一面に広がる水田や屋敷林に覆われた集落とが一体となった田園景観があり、田園景観のシンボルとなるはさ木やため池などがあります。
- 上越魚沼地域振興快速道路の整備予定地に隣接して上越総合運動公園があり、将来的には県立武道館が整備される予定です。
- 広大な平野を流れる中江用水は、地域の農業基盤のひとつとして、欠かせない重要な施設です。
- 旧河川の水辺や草地、森林、様々な動植物が生息・生育する氾濫原については二貫寺の森自然環境保全地域(大字上真砂、大字杉野袋、大字下百々)に指定されており、農林水産省のため池百選に選ばれている青野池など豊かな自然資源があります。



優良な農地と集落



米岡のはさ木

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口が減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。

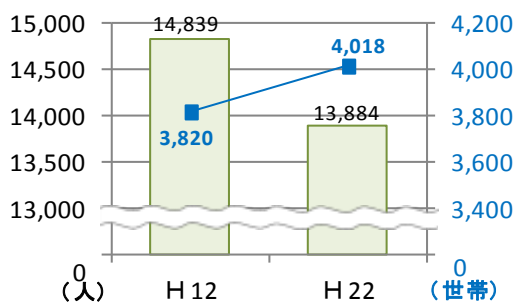


図 人口と世帯数の推移

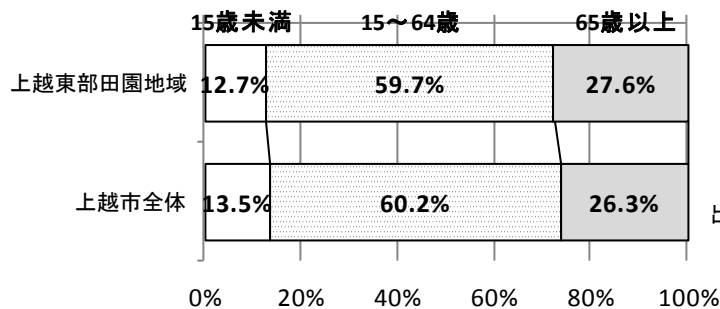


図 区分別人口構成比(H22)

出典：国勢調査に基づき集計

2・地域の現状と課題

●田園地域では、一帯に広がる優良な農地や暮らし続けられる生活環境、地域の基幹産業である農業を守り、定住を促進するなど農村集落の維持に向けて取り組む必要があります。

●田園地域における農業環境の維持とともに、田園景観の維持・保全に向けて取り組む必要があります。

●上越魚沼地域振興快速道路の整備促進や、上越総合運動公園、県立武道館(予定)などの整備進展とともに、今後の社会経済情勢の変化に合わせ、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3・本地域が担う役割

『豊かな田園と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や『広域交通の充実をいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 田園地域における集落内の暮らしを維持・確保するため、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。
- 田園地域における地域住民の暮らしの維持・確保のため、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全及び自然環境の保全に向けた土地利用を検討します。
- 上越魚沼地域振興快速道路や上越総合運動公園、県立武道館(予定)の整備進展、社会経済情勢の変化に伴う新たな地域のニーズに応じた土地利用の検討などにより、市内外との交流・連携を支援します。

1 めりはりのある土地利用の推進

農地
自然

● 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。

集落

● 市街化調整区域においては、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。

将来

● 寺インターチェンジ周辺については、上越魚沼地域振興快速道路の整備により魚沼方面からの新たな玄関口となることが予定されることから、今後の道路整備の進捗状況や地域のニーズなどを考慮して、ゲートウェイとしての位置づけを視野に、ふさわしい機能の整備・誘導に向けた土地利用を検討します。

交流・
連携

● 地域住民が身近に自然と親しむことができる二貫寺の森自然環境保全地域や青野池などの自然資源や上越総合運動公園などの活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

2 道路ネットワークの確保

広域

- 各拠点との連携を強化するため、また広域的な交流と救急医療体制の充実を図るため、上越魚沼地域振興快速道路及びその周辺道路の整備を促進します。

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。



上越魚沼地域振興快速道路
(寺IC～サブIC)
高田河川国道事務所提供

3 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- これまでの路線バスなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線バスの重複区間の再編成などにより、地域公共交通を維持・確保します。

バス

- 上越妙高駅へのアクセスの確保に向けて、鉄道と路線バス、路線バス同士などの乗り換えがスムーズになるようなダイヤ設定などを働きかけます。
- 利用者ニーズを踏まえた上越妙高駅への路線バスの乗り入れ、路線の新設、ダイヤ設定などを働きかけます。

4 スポーツ活動を軸とした交流の場としての上越総合運動公園の整備

- スポーツ活動を軸とした交流の場を形成し、広域的な交流をさらに促進することにより地域活性化を図るため、県立武道館の整備計画の進捗をみながら、上越総合運動公園及びその周辺も含めた整備を計画的に進めます。



上越総合運動公園

5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

浸水対策

- 県により管理される戸野目川、飯田川、桑曾根川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川や雨水幹線などについても適正な維持管理を推進します。

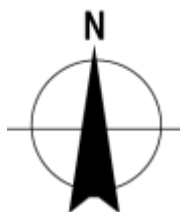
地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雷住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

地域づくりの方針図(上越東部田園地域)



1. 上越地域 (7)大潟・頸城(西部)地域

1・地域の概要

《位置》

●大潟・頸城(西部)地域は、上越都市計画区域の北東部に位置し、日本海と並行する一般国道8号や一般県道犀潟柿崎線、一般県道大潟上越線沿道を中心に市街地が形成されている地域です。

《都市計画上の位置づけ》

●大潟・頸城(西部)地域は、全域が線引き都市計画区域※となっており、日本海沿岸部や頸城区西部に市街化区域が広がり、その内陸側が市街化調整区域になっています。

※線引き都市計画区域：無秩序な市街化を防止し、計画的に市街化を進めるため、市街化区域と市街化調整区域に区分している都市計画区域

1 地域資源

- 潟町砂丘に後背する湖沼群の中でも大きい朝日池に隣接して、“潟”の貴重な自然を残し伝えつつ、自然を学ぶ場となる大潟水と森公園があります。
- 本地域には、鶉の浜海水浴場、鶉の浜温泉街、鶉の浜人魚館、大潟キャンプ場などがあります。また、日本海沿岸部では日本海に沈む夕陽を望む景観が楽しめます。
- 本地域に近接する頸城区中心部には、酒をテーマとした坂口記念館や、軽便鉄道・蒸気機関車が保存されているくびき野レールパークなど、観光・文化資源があります。
- 本地域には、直江津港や一般国道8号からアクセスしやすい土地条件をいかして、新潟県南部産業団地、大潟工業団地、西福島工業団地に製造業などの工場が立地しています。
- 本地域の大潟区には、刺網漁が盛んな大潟漁港があります。



大潟水と森公園



新潟県南部産業団地と直江津港

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口が減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも低く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも高い状況になっています。

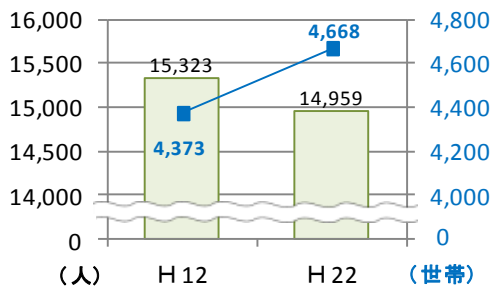


図 人口と世帯数の推移

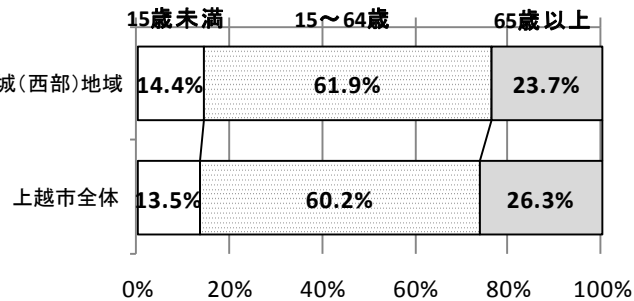


図 区分別人口構成比(H22)

出典：国勢調査に基づき集計

2・地域の現状と課題

●行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境・農業環境の確保に取り組む必要があります。

●産業などの集積と、主要な交通ネットワーク及び北陸自動車道大潟スマートインターチェンジに近接する充実した環境をいかした土地利用の維持・向上に取り組むことが必要です。

●自然資源や観光・文化資源にみがきをかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3・本地域が担う役割

『地域拠点、生活拠点を中心に暮らし続けられる地域』や、『工業、農業、観光資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 大潟区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療福祉などの日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 工業集積地においては、産業立地を促進するため、企業誘致など産業分野の施策との連携により適正な土地利用を進めるとともに、社会経済情勢などの変化を踏まえ、地域のニーズに合った適正な土地利用を検討します。
- 自然資源や観光・文化資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

1 めりはりのある土地利用の推進

市街地

住居系

- 住宅を主とする低層低密な住宅地では、ゆとりある良好な住環境の形成に向けた土地利用を推進します。
- 幹線道路の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。

工業系

- 工業集積地においては、産業立地を促進するため、企業誘致など産業分野の施策との連携により適正な土地利用を進めるとともに、社会経済情勢などの変化を踏まえ、地域のニーズに合った適正な土地利用を検討します。
- 流通業務地においては、北陸自動車道及び一般国道8号や直江津港に近接する充実した環境をいかし、流通業務系施設の立地を誘導するため、地域のニーズを踏まえて土地利用の面から適切に支援します。

商業系

- 鶴の浜温泉街周辺の商業集積地では、まちのにぎわい創出のため、観光・交流施設などの集積を誘導します。
- 生活利便商業集積地では、隣接する住宅地の生活環境との調和を図りつつ、日常生活に必要な小規模な日用品店舗などの立地を誘導します。

田園地域

農地自然

- 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。

集落

- 市街化調整区域においては、都市計画制度の活用を図り、集落の活力の維持・向上に向けた地域住民の主体的な取組を支援します。

全体域

交流・連携

- 地域住民が身近に自然と親しむことができる大潟水と森公園などの自然資源の活用や、鶴の浜海水浴場、鶴の浜温泉街、鶴の浜人魚館、大潟キャンプ場、隣接する頸城(東部)地域にある坂口記念館、くびき野レールパークなどの観光・文化資源の活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

2 拠点の形成

大潟区の中心的エリア

※中心的エリア:総合事務所周辺

- 大潟区の中心的エリアにおいては、日常生活に欠かせない機能や、周辺の拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

3 道路ネットワークの確保

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組めます。

都市計画道路

- 幹線道路網及び市街地内の生活道路網の形成を図るため、社会経済情勢や地域の実情に応じて、関係機関と連携しながら都市計画道路の整備に努めます。
- 長期にわたって未着手となっている都市計画道路は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。



一般国道8号ボランティアサポートプログラムの活動
(四ツ屋のクローバー)

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- これまでの鉄道、路線バスやスクールバス混乗などの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線の統合や経路、ダイヤの見直しなどにより、地域公共交通を維持・確保します。

鉄道

- 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定、強風対策などを働きかけます。
- また、ほくほく線から信越本線、上越妙高駅への直通運転の実施を働きかけます。

5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

下水道

- 生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道(汚水・雨水)の整備を推進します。

浸水対策

- 県により管理される保倉川、潟川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川や雨水幹線などについても適正な維持管理を推進します。

津波対策

- 津波から人命を守る観点から、津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップなどによる周知活動を図ります。

地域防災力

- 木造建物の耐震化、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

海岸浸食対策

- 沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

6 都市環境の保全

公害防止

- 産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用への見直しを図るなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。

緑地空間

- 環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。

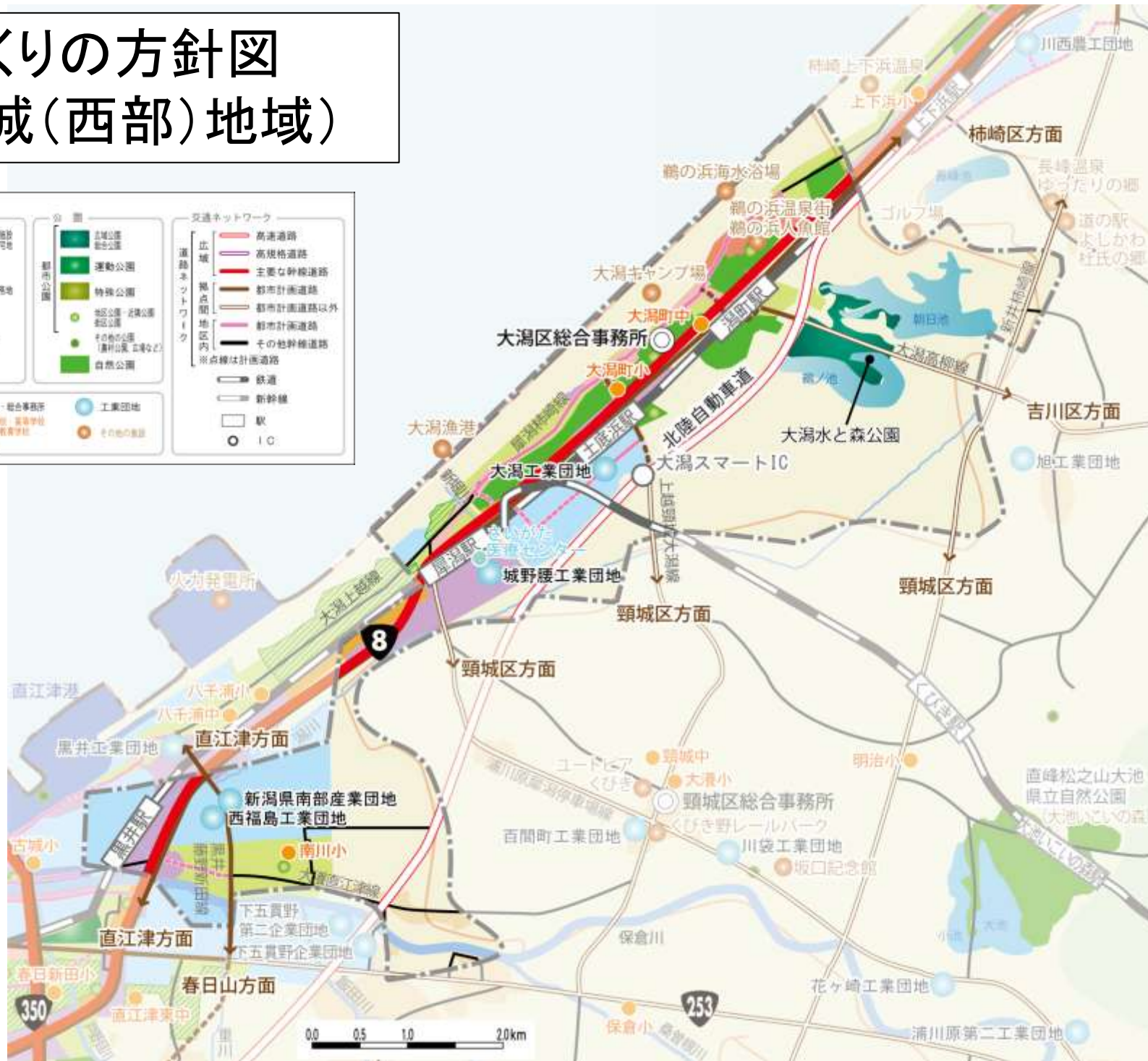
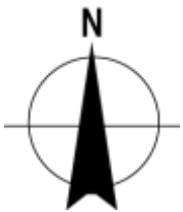
砂防林

- 海岸部特有の飛砂による被害の防止に向けて、関係分野と連携しながら松林などの飛砂防備保安林の保全・維持管理を推進します。



松林(大潟区)

地域づくりの方針図 (大潟・頸城(西部)地域)



2. 柿崎地域

1. 地域の概要

《位置》

- 柿崎地域は、上越市の北東部に位置し、日本海と並行する一般国道8号、北陸自動車道や柿崎駅を中心に市街地が形成されている地域です。

《都市計画上の位置づけ》

- 柿崎地域の西部は、非線引き都市計画区域※となっており、一部に用途地域が定められています。また本地域の東部は都市計画区域外になっています。

※非線引き都市計画区域：市街化区域と市街化調整区域の区域区分を行わない都市計画区域

1 地域資源

- 市街地には、バスケットコートが3面とれるメインアリーナなど多様なスポーツで利用できる柿崎総合体育館(かきざきドーム)や照明付き屋外運動場を含む柿崎総合運動公園、柿崎中央海水浴場、柿崎上下浜温泉、ゴルフ場などがあります。また、柿崎海岸は柿崎海岸自然環境保全地域となっています。
- 田園地域には、米山からの水源により一面に広がる農地からなる田園景観があります。
- 中山間地域には、霊峰米山(標高993m)を中心に、佐渡弥彦米山国定公園及び米山福浦八景県立自然公園が広がります。また、名水百選の大出口泉水、柿崎川ダムなどの水に関わる資源があります。
- 本地域には、刺網漁が盛んな柿崎漁港があります。



柿崎総合運動公園



米山と田園景観

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。

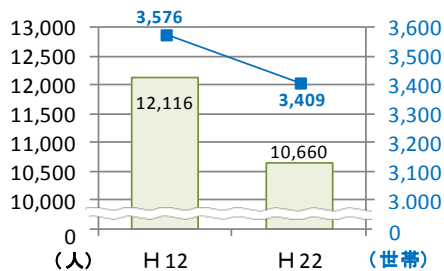


図 人口と世帯数の推移

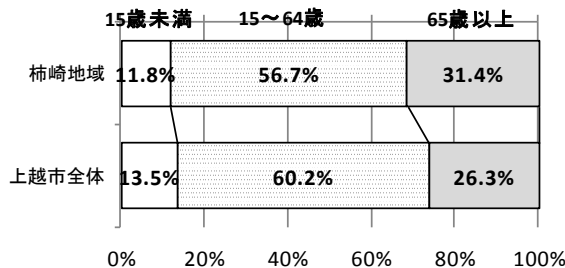


図 区分別人口構成比(H22)

出典：国勢調査

2. 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境・農業環境の確保に取り組む必要があります。

- 日本海に面する沿岸部や中山間地域をもつ本地域では、津波に伴う浸水被害、沿岸部における海岸浸食、新潟県中越沖地震において被災した地域など宅地防災が必要な地域の把握などの課題に対応し、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。

- 自然資源や観光資源、柿崎総合体育館や柿崎総合運動公園などをいかして、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3・本地域が担う役割

『地域拠点を中心に暮らし続けられる地域』や、『工業、農業、観光資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 柿崎区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療福祉などの日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 津波避難誘導看板の設置やハザードマップなどによる周知活動、海岸保全施設の整備促進、自主防災組織の支援、宅地造成における取組や防災面を考慮した土地利用などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。
- 自然資源や観光資源、柿崎総合体育館(かきざきドーム)や柿崎総合運動公園などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

1 めりはりのある土地利用の推進

市街地

住居系

- 住宅を主とする低層低密な住宅地では、ゆとりある良好な住環境の形成に向けた土地利用を推進します。
- 幹線道路の沿道では、日常生活を支える店舗や教育施設、交流施設などが身近にある暮らしやすい住環境の形成に向けた土地利用を促進します。

工業系

- 工業集積地においては、産業維持の観点から、企業誘致など産業分野の施策との連携により適正な土地利用を進めるとともに、社会経済情勢などの変化を踏まえ、地域のニーズに合った適正な土地利用を検討します。
- 流通業務地においては、北陸自動車道及び一般国道8号に近接する充実した環境をいかし、流通業務系施設の立地を誘導するため、地域のニーズを踏まえて土地利用の面から適切に支援します。

商業系

- 柿崎駅周辺の商業集積地では、まちのにぎわい創出や市民生活の利便性向上を図るための商業施設などの集積を誘導します。

中山間地域

農地自然

- 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- 中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

集落

- 田園地域及び中山間地域では、集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。

地域全体

交流・連携

- 米山を背景に佐渡弥彦米山国定公園・米山福浦八景県立自然公園に広がる森林資源及び優良な水源、柿崎海岸自然環境保全地域などの様々な自然資源の活用や、柿崎中央海水浴場、柿崎上下浜温泉、柿崎川ダム、ゴルフ場などの観光資源、柿崎総合体育館(かきざきドーム)や柿崎総合運動公園などの活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

2 拠点の形成

柿崎区の中心的エリア

※中心的エリア:総合事務所周辺

- 柿崎区の中心的エリアにおいては、日常生活に欠かせない生活機能や、周辺の拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。



柿崎区商業施設
(一般国道8号沿道)

3 道路ネットワークの確保

- 拠点間** ● 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。
- 地域内** ● 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。
- 都市計画道路** ● 幹線道路網及び市街地内の生活道路網の形成を図るため、社会経済情勢や地域の実情に応じて、関係機関と連携しながら都市計画道路の整備に努めます。
- 長期にわたって未着手となっている都市計画道路は、路線の必要性や事業の実現性を検証し、適正な見直しを検討します。

4 公共交通ネットワークの確保

- 地域全体** ● これまでの鉄道や路線バスなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線の統合や経路、ダイヤの見直しなどにより、地域公共交通を維持・確保します。
- 鉄道** ● 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定、強風対策などを働きかけます。

5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

- 下水道** ● 生活環境の改善や河川の水質汚濁防止を図るため、また集中豪雨などに伴う浸水被害を軽減するため、下水道(汚水・雨水)の整備を推進します。
- 浸水対策** ● 県により管理される吉川、米山川、柿崎川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川や雨水幹線などについても適正な維持管理を推進します。
- 津波対策** ● 津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップなどによる周知活動を図ります。
- 地域防災力** ● 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保を検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。
- 空き家対策** ● 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適切な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。
- 土砂災害対策** ● 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。
- 災害発生時に滑動・崩落の危険性が高い大規模盛土造成地についての調査や、必要に応じた対策を検討するとともに、的確なリスク情報開示などに継続して取り組みます。
- 海岸浸食対策** ● 沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

6 都市環境の保全

- 公害防止** ● 産業活動に起因する騒音などの公害を防止し、生活環境の維持・向上を図るため、周辺と調和した適正な土地利用を検討するなど、必要に応じて都市計画の面から支援します。
- 緑地空間** ● 環境負荷低減などのため、関係分野と連携しながら、公園緑地や街路樹などの緑地空間の保全・維持管理を推進します。
- 砂防林** ● 沿岸部特有の飛砂による被害の防止に向けて、関係分野と連携しながら松林などの飛砂防備保安林の保全・維持管理を推進します。

地域づくりの方針図 (柿崎地域)



3. 中郷地域

1. 地域の概要

《位置》

●中郷地域は、上越市の南部、妙高市(旧新井市)の南側に位置し、一級河川片貝川、渋江川沿川を中心に集落が形成された地域です。

《都市計画上の位置づけ》

●平成10年4月に新井都市計画区域として当初編入指定され、平成22年3月に新井都市計画区域と妙高高原都市計画区域が統合し、現在の妙高都市計画区域(非線引き都市計画区域※)が指定されました。現在も地域の一部が妙高都市計画区域に含まれ、西側の山岳地は都市計画区域外になっています。

※非線引き都市計画区域:市街化区域と市街化調整区域の区域区分を行わない都市計画区域

1 地域資源

- 本地域には、妙高山を背景とする豊かな自然環境が広がっています。
- 二本木駅西側には1920年に操業を開始した大規模な工場が立地し、医薬品原料など特色ある製品を直江津港から海外に向けて輸出しており、地域において欠かせない雇用の場となっています。
- 本地域には、コンサートなどが楽しめる広々としたホールや研修室、和室、創作室、学習室、陶芸工房などの研修交流施設を備えるは一とびあ中郷があります。
- 本地域には、縄文時代の遺跡に多く見られる同心円状の空間をイメージして造られている泉縄文公園があります。また、恵まれた自然環境をいかしたゴルフ場、レジャー施設など集客性のある施設があります。



松ヶ峯周辺の桜と妙高山



泉縄文公園

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。

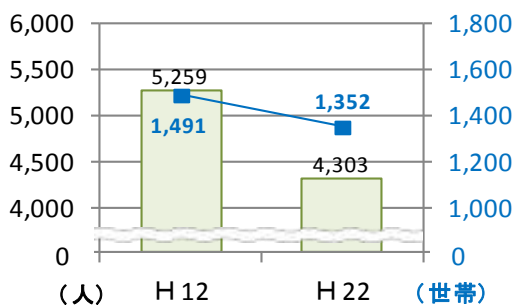


図 人口と世帯数の推移

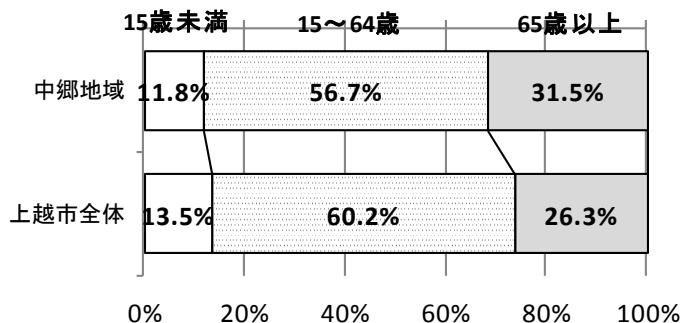


図 区分別人口構成比(H22) 出典:国勢調査

2. 地域の現状と課題

●行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。

●本地域では、土砂災害の危険がある区域が存在することから、安全・安心なまちづくりに取り組むことが必要です。

●自然資源や研修交流施設、泉縄文公園、ゴルフ場、レジャー施設などの観光資源をいかして、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3・本地域が担う役割

『妙高山を背景に豊かな自然と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や、『産業、観光資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 中郷区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 河川の適正な維持管理、土砂災害防止や被害軽減に向けた取組、自主防災組織の支援などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。
- 研修交流施設、泉縄文公園、ゴルフ場、レジャー施設などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、上信越自動車道の4車線化の促進に取り組みとともに、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

1 めりはりのある土地利用の推進

暮らしの維持

- 本地域内にある居住地、工業地、農地、観光・レジャー施設、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を目指します。
- 集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。

農地自然

- 農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

交流・連携

- は一とぴあ中郷などの研修交流施設や泉縄文公園、ゴルフ場、レジャー施設などの観光資源などの活用により、市内外との交流・連携を都市計画の面から支援します。

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

連携

- 本地域の一部が妙高都市計画区域に含まれることから、新潟県が定める広域都市計画マスタープランを踏まえ、妙高市と連携を図りながら土地利用を進めます。



は一とぴあ中郷

2 拠点の形成

中郷区の中心的エリア

※中心的エリア：総合事務所周辺

- 中郷区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点や妙高市との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。



二本木駅前

3 道路ネットワークの確保

広域

- 市内外との広域的な移動と交流・連携を支える広域ネットワークの形成のため、上信越自動車道の4車線化の早期実現を働きかけます。

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。



北国街道

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- これまでの鉄道や乗合タクシーなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、乗合タクシーの利便性向上や運行の見直しなどにより、地域公共交通を維持・確保します。

鉄道

- 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定などを働きかけます。

5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

浸水対策

- 県により管理される片貝川、渋江川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。

土砂災害対策

- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。

地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保に努めます。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

地域づくりの方針図 (中郷地域)



4. 頸城(東部)・吉川・三和地域

1. 地域の概要

《位置》

●頸城(東部)・吉川・三和地域は、上越市の北東部に位置し、主に田園地域である頸城区(東部)・三和区、田園地域と中山間地域である吉川区の地域です。

《都市計画上の位置づけ》

●本地域は全域が都市計画区域外になっています。

1 地域資源

- 田園地域には、一面に広がる農地、屋敷林に囲まれた集落、新潟県景勝百選である大池いこいの森、自然環境保全地域に指定されている谷内池、道の駅よしかわ杜氏の郷、酒をテーマとした坂口記念館、軽便鉄道・蒸気機関車が保存されているくびき野レールパーク、温泉浴施設(スカイピア遊ランド、長峰温泉ゆったり)の郷、ネイチャーリングホテル米本陣などの観光・文化資源があります。
- また、多目的ホールや機能回復室、トレーニングルーム、生活工房、会議室、研修室や屋外施設などの研修交流施設を備えるユートピアくびきがあります。
- 中山間地域には、豊かな森林、農地、尾神岳などの自然資源のほか、尾神岳にはハイキングやスカイスポーツなどの自然をいかしたレジャー体験を提供する観光資源などがあります。



田園地域に広がる農地



スカイスポーツ
エリアとして
知られる尾神岳

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口が減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高い状況になっています。

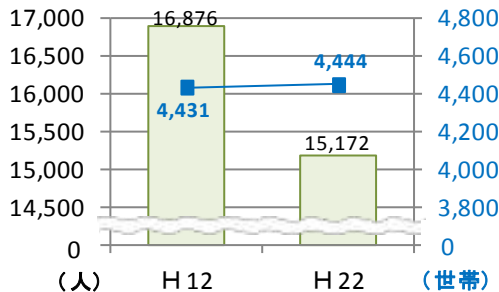


図 人口と世帯数の推移

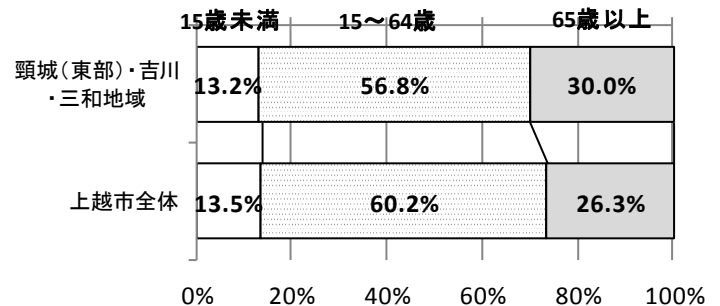


図 区分別人口構成比(H22)

出典: 国勢調査に基づき集計

2. 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。
- 上越魚沼地域振興快速道路の整備促進や、自然資源、観光・文化資源にみぎを掛けて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3・本地域が担う役割

『豊かな田園・自然と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や、『自然、農業、観光・文化資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 頸城区、吉川区、三和区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。また、上越魚沼地域振興快速道路の整備促進に取り組むとともに、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。
- 自然資源や観光・文化資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。

1 めりはりのある土地利用の推進

暮らしの維持

- 居住地、農地、工業地、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を検討します。
- 集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組めます。

農地自然

- 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- 中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

交流・連携

- 地域住民が身近に自然と親しむことができる尾神岳、大池いこの森、谷内池自然環境保全地域などの様々な自然資源の活用や、道の駅よしかわ杜氏の郷、坂口記念館、くびき野レールパーク、温泉温浴施設などの観光・文化資源、ユートピアくびきなどの研修交流施設の活用により、市内外との交流・連携を支援します。

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。



大池

2 拠点の形成

頸城区、吉川区、三和区の中心的エリア

※中心的エリア：総合事務所周辺

- 頸城区、吉川区、三和区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。



吉川区の中心的エリア

3 道路ネットワークの確保

広域

- 各拠点との連携を強化するため、また広域的な交流と救急医療体制の充実を図るため、上越魚沼地域振興快速道路及びその周辺道路の整備を促進します。

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- これまでの鉄道や路線バス、スクールバス混乗などの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、重複区間などでの路線の再編成や交通不便地域の解消、利用状況に応じた運行内容の見直し、需要に見合った新たな地域公共交通の導入などにより、地域公共交通を維持・確保します。

鉄道

- 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定、及び越後湯沢駅における上越新幹線との乗り換えがスムーズに行えるダイヤ設定などを働きかけます。
- ほくほく線から信越本線、上越妙高駅への直通運転の実施を働きかけます。

5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

浸水対策

- 県により管理される保倉川、桑曾根川、吉川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。

土砂災害対策

- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。

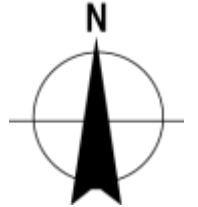
地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保などを検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

地域づくりの方針図 (頸城(東部)・吉川・三和地域)



凡例	
土地利用	
住宅を主とする 低層住宅密集地	生活利便施設付住宅地 (中層)
生活利便施設 副都心住宅地	商業副都心住宅地
生活利便施設付 住宅地	商業副都心住宅地
工業集積地	流通集積地
商業集積地	
生活利便商業集積地 (一級、二級商業副都心住宅地を併記)	
田園地域	中山間地域
集落	都市計画区域
交通ネットワーク	
高速道路	主要な幹線道路
高規格道路	都市計画道路
都市計画道路以外	都市計画道路
その他幹線道路	その他幹線道路
計画線は計画道路	
鉄道	新幹線
駅	IC
公園	
広域公園 総合公園	運動公園
都市公園	特設公園
地区公園・近隣公園 駅前公園	その他の園 (園地、公園等)
自然公園	
その他	
河川	自然環境保全地域
新幹線	通勤づくり重点区域
水源地保護地域	市役所・総合事務所
	小中学校・高等学校 中等教育学校
	病院
	工業団地
	その他の施設

5. 安塚・浦川原・大島地域

1. 地域の概要

《位置》

- 安塚・浦川原・大島地域は、上越市の東部に位置し、田園地域と中山間地域の接点となっている浦川原区、主に中山間地域である安塚区・大島区の地域です。

《都市計画上の位置づけ》

- 本地域は全域が都市計画区域外になっています。

1 地域資源

- 本地域には、豊かな自然環境に囲まれた集落の中で人々が生活を営む中山間地域が広がっています。
- 国指定文化財である虫川の大杉、小黒専敬寺や顕聖寺、安塚神社(諏訪神社)などの神社仏閣、雪室(雪中貯蔵庫)を併設した道の駅雪のふるさと やすづか、田麦ぶなの森園、全長80kmのロングトレイルが楽しめる信越トレイル、冬はスキー、夏は温泉や食事などが楽しめる雪だるま高原キューピットバレイ、温泉施設(ゆきだるま温泉雪の湯)など、地域の自然や歴史、雪をいかした観光・文化資源があります。
- 山々に囲まれた美しい棚田で収穫された米、日本酒、そば、自然薯などの特産品があり、これらの物産品を扱う雪だるま物産館などの観光資源があります。また、自然散策・農林業体験・環境学習・民泊などの数多くの体験メニューを提供する越後田舎体験に取り組んでいます。
- 安塚区では、「雪のふるさと安塚」をキャッチフレーズに雪をテーマにした様々な取組が、一年を通じて地域ぐるみで展開されているほか、牧区も含む4つの区では「灯の回廊」と称した親雪連携イベントを実施しています。
- また、安塚区内には、雪室をいかした8か所の雪冷房施設が整備され、地域全体で雪の利活用に取り組んでいます。
- 中山間地域には、霧ヶ岳、菖蒲高原、直峰松之山大池県立自然公園、小海の池、鼻毛の池などの自然資源があります。



中山間地域の集落



越後田舎体験

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。

出典：
国勢調査

2. 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。

- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。

- 上越魚沼地域振興快速道路の整備促進や、自然資源、観光・文化資源にみがきをかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3・本地域が担う役割

『豊かな地域資源や自然環境の中で暮らし続けられる地域』としての役割や、水と緑・歴史などの地域資源と自然環境をいかした体験交流事業による市内外からの観光交流など『産業、自然、農業、観光・文化資源などをいかした交流・連携を進める地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 浦川原区、安塚区、大島区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。また、上越魚沼地域振興快速道路の整備促進に取り組むとともに、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。
- 自然資源や観光・文化資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。

1 めりはりのある土地利用の推進

暮らしの維持

- 本地域内にある商業地、居住地、工業地、農地、観光・レジャー施設、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を検討します。
- 集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組めます。

自然農地

- 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- 中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

交流・連携

- 地域住民が身近に自然と親しむことができる霧ヶ岳、菖蒲高原、直峰松之山大池県立自然公園、小海の池、鼻毛の池、豊かな森林、水源保護地区などの様々な自然資源の活用や、虫川の大杉、小黒専敬寺、顕聖寺、安塚神社(諏訪神社)、道の駅雪のふるさとやすづか、田麦ぶなの森園、信越トレイル、雪だるま高原キューピットバレイ、温泉施設、雪だるま物産館などの観光・文化資源の活用により、市内外との交流・連携を支援します。

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。



田麦ぶなの森園(大島区)

2 拠点の形成

浦川原区、安塚区、大島区の中心的エリア

※中心的エリア：総合事務所周辺

- 浦川原区の中心的エリアにおいては、日常生活に欠かせない機能や、周辺の拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 安塚区、大島区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

3 道路ネットワークの確保

広域

- 各拠点との連携を強化するため、また広域的な交流と救急医療体制の充実を図るため、上越魚沼地域振興快速道路及びその周辺道路の整備を促進します。

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組みます。



上越魚沼地域振興快速道路

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- これまでの鉄道や路線バス、スクールバス混乗などの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、利用状況に応じた運行内容、ダイヤの見直し、需要に見合った新たな地域公共交通の導入などにより、地域公共交通を維持・確保します。

鉄道

- 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定、及び越後湯沢駅における上越新幹線との乗り換えがスムーズに行えるダイヤの設定などを働きかけます。
- ほかほか線から信越本線、上越妙高駅への直通運転の実施を働きかけます。

5 住民参加による景観づくりの推進

- 景観づくり重点区域における魅力ある景観の形成を図るため、安塚区での住民参加による景観づくりの取組を引き続き支援するほか、浦川原区、大島区で取り組まれている景観の維持・保全の取組について、支援します。

6 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

浸水対策

- 県により管理される保倉川、小黒川、船倉川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。

土砂災害対策

- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。

地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる広場や、避難路となる生活道路の確保などを検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

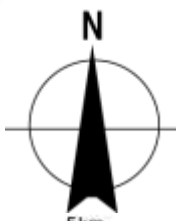
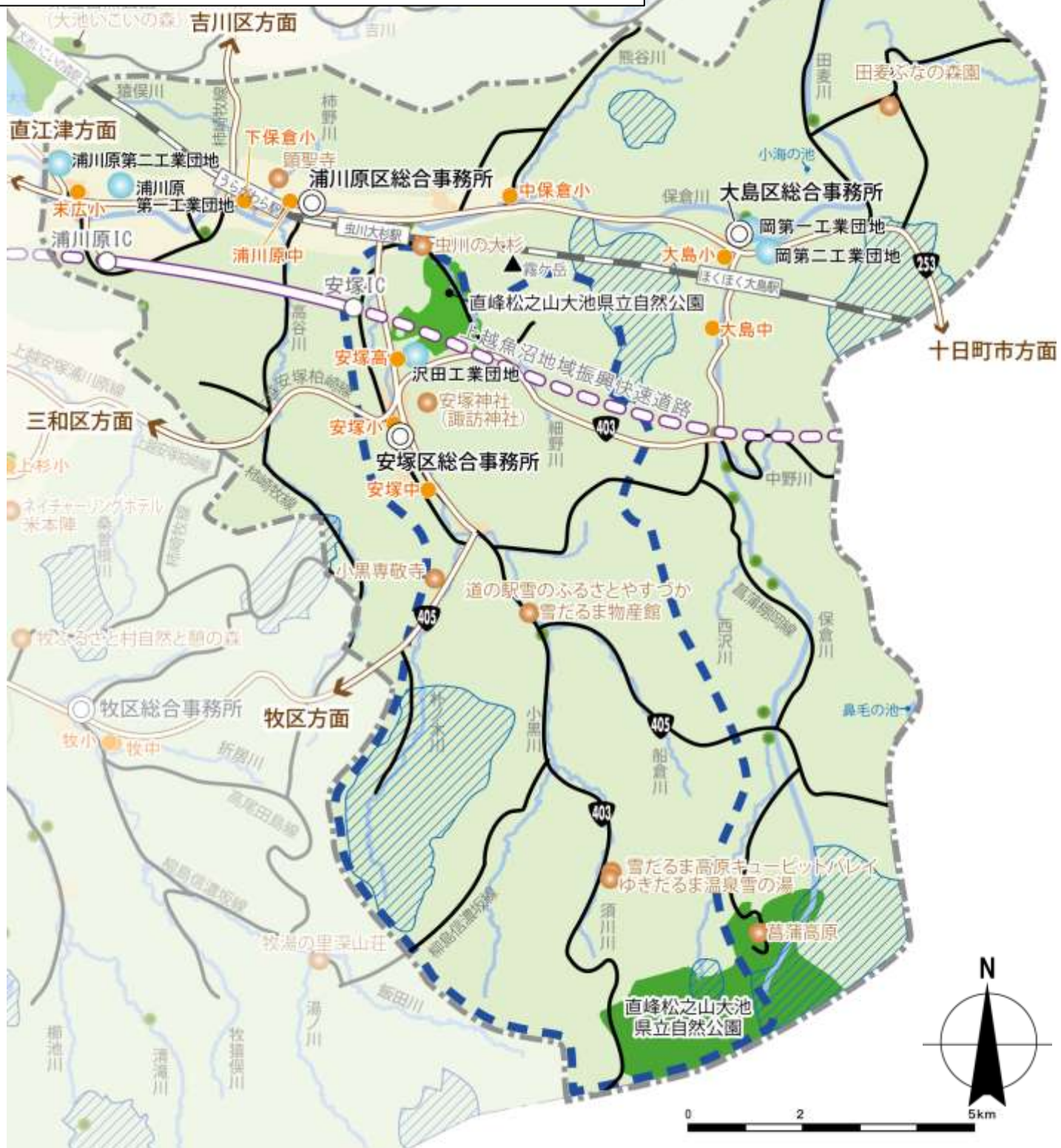
空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

7 雪の利活用の取組の推進

- 雪を強みとした克・利・親雪の取組として、地域住民との協働により、安塚区内における雪室及び雪冷房施設の利活用を引き続き推進するとともに、地域連携による親雪連携イベントなどの観光施策と連携した取組を支援します。

地域づくりの方針図 (安塚・浦川原・大島地域)



土地利用	公園	交通ネットワーク	その他
<ul style="list-style-type: none"> 田園地域 中山間地域 集落 都市計画区域 	<ul style="list-style-type: none"> 広域公園 運動公園 特殊公園 地区公園・近隣公園 その他の公園 (農村公園、広域公園) 自然公園 	<ul style="list-style-type: none"> 高速道路 高規格道路 主要な幹線道路 都市計画道路 都市計画道路以外 都市計画道路 その他幹線道路 ※点線は計画道路 鉄道 新幹線 駅 IC 	<ul style="list-style-type: none"> 河川 自然環境保全地域 景観づくり重点区域 水道水源保護地域 市役所・総合事務所 中学校・高等学校 高等学校 工業団地 その他の施設

6. 牧・板倉・清里地域

1. 地域の概要

《位置》

- 牧・板倉・清里地域は、上越市の南東部に位置し、主に田園地域と中山間地域である板倉区、主に中山間地域である牧区・清里区の地域です。

《都市計画上の位置づけ》

- 本地域は全域が都市計画区域外になっています。

1 地域資源

- 田園地域には、一面に広がる高田平野の農地や屋敷林に囲まれた集落などの田園景観、妙高山を望む景観、牧区の牧歴史民俗資料館、板倉区の中村十作記念館、糸しんの里記念館、地すべり資料館、清里区の上越清里星のふるさと館、菅原神社、温泉温浴施設(糸しんの里やすらぎ荘、牧湯の里深山荘)などの観光・文化資源があります。
- 中山間地域には、深山のブナ林、清里ブナの森、全国ため池百選に選ばれた坊ヶ池、光ヶ原高原、豊かな森林などの自然資源のほか、豊かな自然環境に囲まれた農村集落や棚田などの里地里山景観、信越トレイル、牧ふるさと村自然と憩の森などの自然と調和した観光資源などがあります。



田園地域に
広がる農地



中山間地域
の棚田

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。

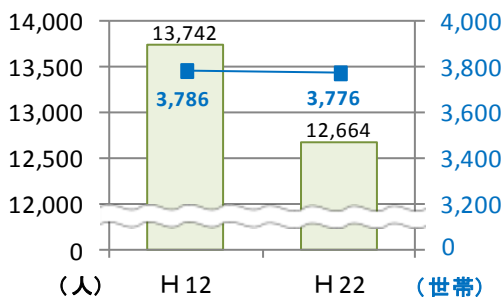


図 人口と世帯数の推移

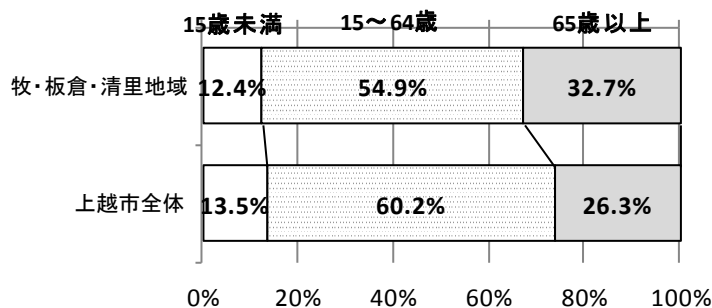


図 区分別人口構成比(H22)

出典：国勢調査

2. 地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークが必要です。
- 自然資源や観光・文化資源にみがきをかけて、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3・本地域が担う役割

『豊かな田園・自然と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や、『自然、農業、観光・文化資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 板倉区、牧区、清里区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境や農業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。また、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。
- 自然資源や観光・文化資源などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。

1 めりはりのある土地利用の推進

暮らしの維持

- 商業地、居住地、工業地、農地、森林などの現在の配置を踏まえつつ、暮らしやすい住環境を維持するため、関係分野と連携しながら、適正な土地利用を検討します。
- 集落機能の維持を図るため、様々な施策と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。

農地自然

- 田園地域では、農業の担い手となる地域住民の暮らしの維持・確保のため、関係分野と連携しながら、優良な農地の維持・保全に向けた適正な土地利用や、農村特有の美しく緑豊かな田園景観の維持・保全や自然資源の保全に向けた土地利用を検討します。
- 中山間地域では、農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

交流・連携

- 地域住民が身近に自然と親しむことができる深山のブナ林、清里ブナの森、坊ヶ池、光ヶ原高原、豊かな森林、水源保護地区などの様々な自然資源の活用や、信越トレイル、田園景観や里地里山景観、妙高山を望む景観、牧歴史民俗資料館、中村十作記念館、畠しの里記念館、地すべり資料館、上越清里星のふるさと館、菅原神社、温泉温浴施設、牧ふるさと村自然と憩の森などの観光・文化資源の活用により、市内外との交流・連携を支援します。

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。

2 拠点の形成

板倉区、牧区、清里区の中心的エリア

※中心的エリア：総合事務所周辺

- 板倉区の中心的エリアにおいては、日常生活に欠かせない機能や、周辺の拠点を支える機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 牧区、清里区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。

3 道路ネットワークの確保

拠点間

- 国道・県道については、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組めます。



県道新井柿崎線(板倉区針)

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- これまでの路線バスやスクールバス混乗などの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線バスの再編やスクールバスとの重複路線の見直し(混乗化など)や利用状況に応じた運行内容の見直し、需要に見合った新たな地域公共交通の導入などにより、地域公共交通を維持・確保します。

バス

- 妙高はねうまラインの新井駅や北陸新幹線の上越妙高駅へのアクセスの確保に向けて、鉄道と路線バス、路線バス同士などの乗り換えがスムーズになるようなダイヤ設定などを働きかけます。
- 利用者ニーズを踏まえた上越妙高駅への路線バスの乗り入れ、路線の新設、ダイヤ設定などを働きかけます。

5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

浸水対策

- 県により管理される大熊川、別所川、櫛池川、飯田川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。

土砂災害対策

- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。



地すべり(板倉区国川)

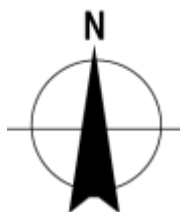
地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保などを検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

地域づくりの方針図(牧・板倉・清里地域)



凡例		公園		交通ネットワーク	
土地利用	公園	交通ネットワーク			
住宅を主とする 低層住宅密集地	生活利便施設現在 住宅地(中層)	広域公園	高速道路	広域	高規格道路
住宅を主とする 中層住宅密集地	商業居住空間住宅地	運動公園	高規格道路	市街	主要な幹線道路
工業集積地	流通業務地	特殊公園	主要な幹線道路	市街	都市計画道路
商業集積地	生活利便施設集積地 (一部、生活商業施設住宅地を含む)	地区公園・公園	都市計画道路	市街	都市計画道路以外
田園地域	中山間地域	その他の公園 (農村公園、公園など)	都市計画道路	市街	都市計画道路
都市計画区域	農地	自然公園	都市計画道路	市街	その他幹線道路
その他			都市計画道路	市街	※点線は計画道路
河川	歴史的・風景的価値 地域	市街公園	鉄道	市街	新幹線
自然環境保全地域	水源水質保護地域	市街公園	新幹線	市街	駅
		市街公園		市街	IC
		市街公園		市街	

7. 名立地域

1・地域の概要

《位置》

- 名立地域は、上越市の西部に位置し、主に日本海に面する沿岸部や二級河川の名立川沿川に集落が形成された地域です。

《都市計画上の位置づけ》

- 本地域は、全域が都市計画区域外になっています。

1 地域資源

- 道の駅うみてらす名立やシーサイドパーク名立、名立崩れ、鳥ヶ首岬灯台、日本海に夕日が沈む景観などの観光・文化資源があります。また、温泉施設(花立温泉ろばた館)があります。
- 地域の南部には、久比岐県立自然公園を中心とする豊かな森林、名立川水系水源保護地域などの自然資源があります。
- 本地域には、タイ漁・エビ漁が盛んな名立漁港(第2種漁港)があります。



夕日の沈む日本海



名立崩れ

2 人口・世帯数

- 平成12年と比較し、平成22年時点では人口、世帯数ともに減少傾向にあります。
- 平成22年時点では、高齢化率は市の平均よりも高く、15歳未満の人口比率は市の平均よりも低い状況になっています。

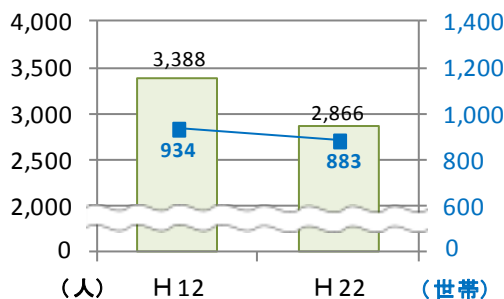


図 人口と世帯数の推移

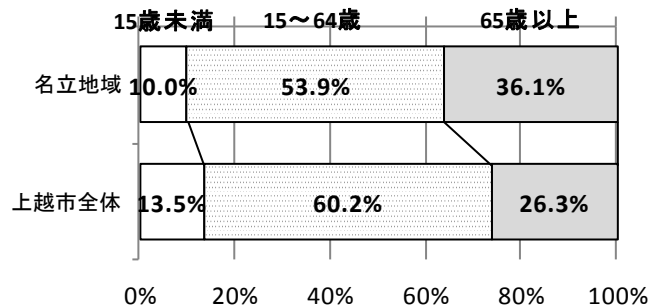


図 区分別人口構成比(H22)

出典：
国勢調査

2・地域の現状と課題

- 行政、商業、医療などの生活サービスが受けられる安心して暮らせるまちを維持・形成するための拠点の形成や、地域の特性に配慮した適正な土地利用を図ることにより、暮らし続けられる生活環境の維持に取り組む必要があります。
- 日本海に面する沿岸部や中山間地域をもつ本地域では、津波に伴う浸水被害、沿岸部における海岸浸食、土砂災害の危険がある区域が存在することから、安全・安心なまちづくりに取り組む必要があります。
- 自然資源や観光・文化資源、名立漁港及び関連産業の集積などをいかして、市内外との交流・連携の充実に取り組む必要があります。

3・本地域が担う役割

『豊かな自然と共生する集落の暮らしが続けられる地域』や、『自然、農業、漁業、観光資源などをいかした交流・連携を図る地域』としての役割を担います。

4・地域づくりの方針

- 名立区の中心的エリアにおける行政機能や商業、医療などの日常生活に欠かせない機能を維持するとともに、生活環境、農林漁業環境、自然環境などの維持・確保を進め、将来にわたって暮らし続けられる地域づくりを目指します。
- 津波避難誘導看板の設置やハザードマップなどによる周知活動、海岸保全施設の整備促進、自主防災組織の支援などの防災・減災対策に取り組み、安全・安心な暮らしを支える環境の維持・確保を目指します。
- 自然資源、観光・文化資源、名立漁港及び関連産業の集積などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。また、幹線道路や生活道路の適正な維持管理及び整備などに取り組みます。

1 めりはりのある土地利用の推進

暮らし
の維持

- 集落機能の維持を図るため、様々な施策に基づく取組と連携しながら、一定規模以上の開発の規制誘導や生活基盤の維持に取り組みます。

農地
自然

- 農林分野の施策に基づき、農業生産活動が持続的に行われるよう、農地の保全を図るとともに、美しい自然環境が後世に引き継がれるよう、豊かな森林環境の保全を図ります。

交流・
連携

- 久比岐県立自然公園などの自然環境の活用や、道の駅うみてらす名立、シーサイドパーク名立、温泉施設、名立崩れ、鳥ヶ首岬灯台などの観光・文化資源や名立漁港及び関連産業などの活用により、市内外との交流・連携を支援します。

防災

- 安全・安心な暮らしを確保するため、行政と地域住民が連携しながら、土砂災害、洪水、なだれなどに対する防災面を考慮して、森林の保全や土地利用の規制・誘導を検討します。



道の駅うみてらす名立

2 拠点の形成

名立区の中心的エリア

※中心的エリア：総合事務所周辺

- 名立区の中心的エリアにおいては、日常生活を支える拠点の形成や日常生活に欠かせない機能の維持・集積を図るとともに、地区内の集落や地区外からの交通アクセスを確保し、交流や連携が図られる拠点を目指します。
- 将来にわたって暮らし続けられるよう、各拠点との連携を支える交通ネットワークの形成を促進します。



名立大町

3 道路ネットワークの確保

拠点間

- 一般国道8号や一般県道東飛山名立線は、適正な維持管理や安全に通行できる道路の整備を促進します。また、冬期間の安全な通行の確保や危険箇所の改善に向けた道路整備を促進します。

地域内

- 地域内の生活道路では、安全な通行を確保するため、適正な維持管理や必要な整備を進めます。また、冬期間の安全な通行の確保に取り組めます。



一般国道8号沿道

4 公共交通ネットワークの確保

地域全体

- これまでの鉄道や路線バスなどの地域公共交通を基本としながら、人口減少や少子高齢化など社会経済情勢の変化や地域の実情を踏まえ、路線バスの再編やスクールバスとの重複路線の見直し(混乗化など)などにより、地域公共交通を維持・確保します。

鉄道

- 利用者のニーズ(移動需要)を踏まえた運行本数やダイヤ設定、及び糸魚川駅における北陸新幹線との乗り換えがスムーズに行えるダイヤの設定などを働きかけます。

5 安全・安心な暮らしを支える基盤の形成

浸水対策

- 県により管理される名立川などの河川は、適正な維持管理を促進します。また、地域内の普通河川などについても適正な維持管理を推進します。

津波対策

- 津波発生時の避難対象地域においては、避難場所表示や津波避難誘導看板の設置、ハザードマップなどによる周知活動を図ります。

土砂災害対策

- 土砂災害が生じる恐れのある区域では、行政と地域住民が連携した土砂災害防止や被害軽減に向けた取組を検討します。

地域防災力

- 木造建物の耐震化、克雪住宅の普及、住宅リフォームによる耐久性や住宅環境の向上などを促進するとともに、行政と地域住民が連携しながら、避難場所となる身近な公園・広場や、避難路となる生活道路の確保などを検討します。また、地域防災力の向上を図るため、自主防災組織の結成及び活動を支援します。

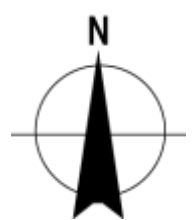
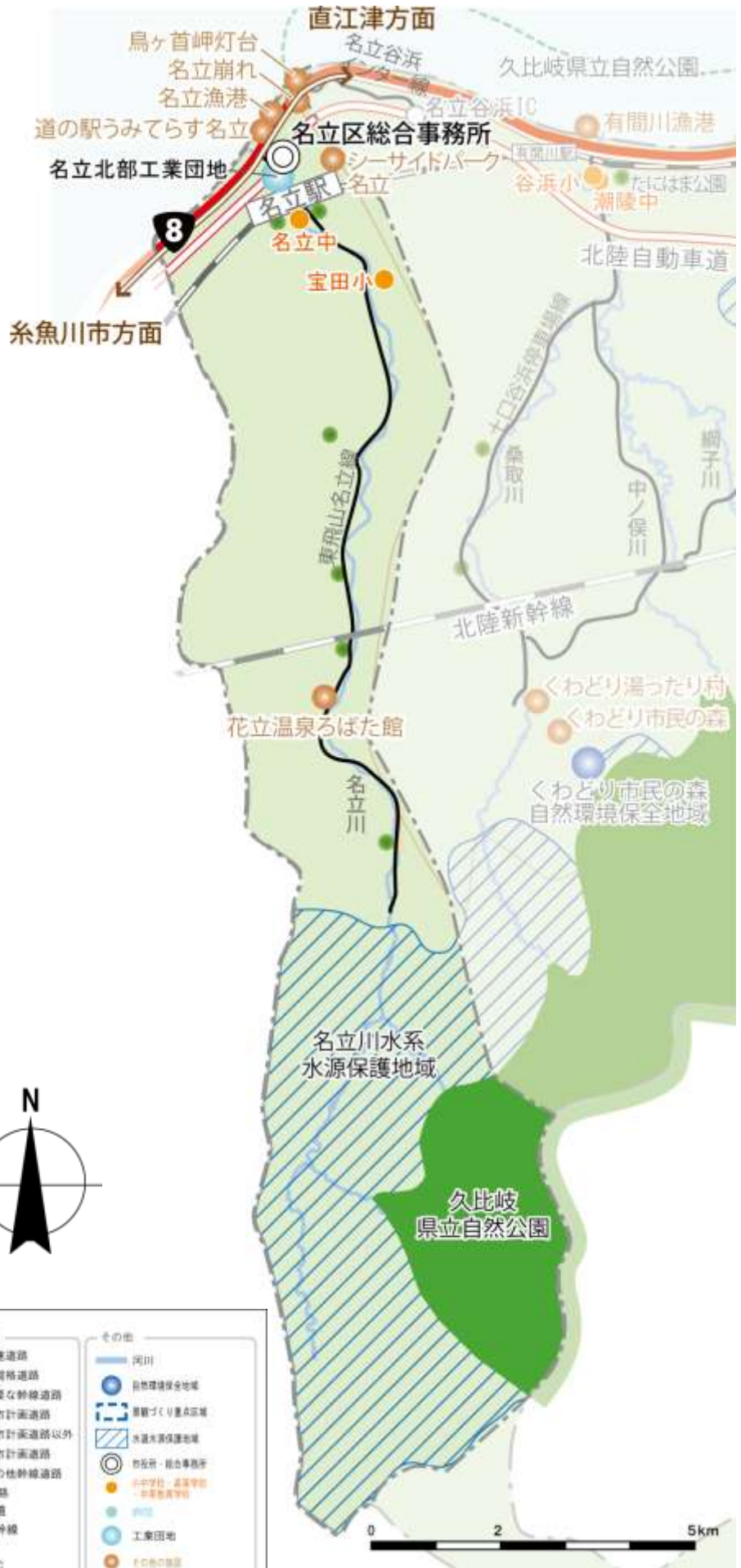
空き家対策

- 放置された空き家は倒壊や火災などの危険性があることから、適正な管理や有効活用に向けた空き家対策を検討します。

海岸浸食対策

- 沿岸部の海岸浸食への対策として、海浜地の海岸保全施設の整備を促進します。

地域づくりの方針図(名立地域)



凡例		交通ネットワーク		その他			
土地利用 田園地域 中山間地域 集落 都市計画区域		公園 広域公園 総合公園 運動公園 特殊公園 地区公園・公園等 地区公園 その他の公園 (農村公園、広場など) 自然公園		高速道路 高規格道路 主要な幹線道路 都市計画道路 都市計画道路以外 都市計画道路 その他幹線道路 ※路線は計画道路 鉄道 新幹線 駅 IC		河川 自然環境保全地域 景観づくり重点区域 水源水質保護地域 防災用・総合事務所 小中学校・生涯学習 生涯学習施設 工業団地 その他の施設	

